

真庭市文化芸術推進計画（案）

計画期間：令和8年度～令和12年度



令和8年〇月策定

真庭市

目次

(はじめに) 文化芸術による「真庭ライフスタイル」の提案	1
1. 「文化芸術」とは？	
2. なぜ真庭市が文化芸術振興を推進するのか	
第1章 計画策定にあたって	3
1. 計画策定の背景と目的	
2. 計画の位置づけと計画期間、文化芸術の範囲	
第2章 これまでの取組状況と課題	6
1. 第3次計画期間(2021-2025)における具体的取組	
2. 成果指標(KPI)による評価と課題	
3. 文化芸術推進計画アンケート	
4. 真庭の文化と芸術を考えるワークショップ	
5. ヒアリングの実施～聞いてみた！真庭市での文化芸術の楽しみ方、つながり方って？	
6. 課題の抽出	
第3章 計画の基本的な考え方	12
1. 基本目標	
2. 基本方針	
3. 計画の体系	
第4章 具体的な取組	14
第5章 計画の推進のために	15
1. 推進体制の構築	
2. 進行管理(PDCAサイクル)	
(資料編)	
◆第3期計画期間における実績・評価	
◆アンケート結果	
◆ワークショップまとめ	
◆ヒアリングまとめ	
◆市内文化芸術施設の利用状況実績表(R3～R6)	
◆用語解説	
◆計画策定の経緯(会議等の開催実績)	
◆委員一覧	

(はじめに)

本計画では、「文化」を共有された社会の土壌であり、「芸術」を個人の思想や感性にもとづくあらたな問いかけや創造力ととらえます。芸術は文化から生まれると同時に、既存の枠組みに問いを投げかけ、社会を豊かにする原動力となります。真庭市はこの両者のダイナミックな関係性を活かし、未来に向けた独自の「真庭ライフスタイル」を提案していきます。

1. 「文化芸術」とは？

本計画は、真庭市として「文化芸術」を推進する方策を定めるものです。最初に「文化芸術」とは何か、整理しておきます。文化と芸術は、しばしば混同して使われることもありますが、その本質には違いがあります。

まず、文化は、集団（国、地域、民族、社会など）が共有する生活様式や価値観、思考様式、習慣、知識、技術、制度の総体と定義されてきました。人びとはそうした文化に価値を認め、集団への帰属意識や誇りをもつ基盤にもなっています。しかし、集団で共有された文化は、ときに個人の自由を妨げることもあります。たとえば、伝統的なしきたりや礼儀作法、道徳などの文化は、集団に秩序をもたらし、社会機能を維持する一方で、個人の考え方や行動を縛ることもあるのです。

芸術も、人間活動により創り出されたものであり、文化を形成する要素の一部といえます。ただし芸術は、文化と違い、個人としての表現者（芸術家）のもつ思想や感情、美意識を表現・創造する活動やその作品を指しています。文化が集団に共有されるものであるとしたら、芸術は個人の個性が強調される営みなのです。

こうした文化と芸術は、歴史のなかで相互に影響を与え、密接な関係をつくりあげてきました。芸術家の作品は、その属する文化（社会の価値観、歴史、技術、美意識）に大きな影響を受けています。芸術は文化という土壌から生まれ、文化の一部となって歴史に刻まれてきたのです。

しかし芸術は、ときに文化に「問い」を投げかける存在でもあります。独創的な芸術は、既存の価値観や常識といった文化的な枠組みに挑戦し、批判的な視点を提供します。こうした芸術が提起するあらたな視点によって、社会や文化は大きく変化してきました。芸術は文化に「あらたな体験」をもたらすものなのです。それまでになかった斬新な表現手法やジャンルは、人びとの感性を刺激し、生活様式や思考様式、ひいては文化全体を豊かにする原動力になります。

真庭市は、こうした芸術と文化とのダイナミックな関係をふまえて、芸術文化のもつ力を地域に暮らす人びとが豊かなライフスタイルを手にするために活かしたいと考えています。

2. なぜ真庭市が文化芸術振興を推進するのか

真庭市は、文化芸術の振興が持続可能で質の高い地域社会を築くために不可欠な公共政策だと考えています。真庭市が文化芸術を振興する理由としては、以下の3点を挙げることができます。

(1)精神的豊かさや人間性の涵養 (文化的価値)

生きる喜びと心の安定: 芸術体験は、人びとに感動、安らぎ、共感をもたらし、生活の質 (Quality of Life) を向上させます。これは、物質的な豊かさだけでは得られない、市民の精神的な健康に直結します。

多様性と創造性の育成: 芸術活動を通じて、他者の視点や多様な表現にふれることは、寛容性や想像力、創造性といった、複雑な現代社会を生き抜くために必要な人間力を育みます。

(2)地域アイデンティティの確立と地域間交流 (社会的価値)

地域文化の再認識と誇り: 地域に根ざした文化 (祭り、伝統工芸、歴史的景観) や、その地で生まれる芸術を振興することは、市民の郷土愛と地域アイデンティティ (真庭らしさ) を醸成し、コミュニティの結束力を高めます。

交流人口の増加と魅力向上: 独自の文化芸術活動や施設は、地域外からの訪問者 (観光客) を呼び込む地域の魅力的な資源となります。これにより、地域間交流が活性化し、経済的な波及効果も期待できます。(ソフトパワーとしての活用)

(3)教育・福祉・都市再生への寄与 (政策連携価値)

教育効果: 真庭市を含め、日本全体で少子高齢化と急激な人口減少が進行しています。2100年には人口が半減、高齢化率も上昇し続ける推計です。この構造変化を前提に、未来を見据えた慎重な検討と適切な対応が求められています¹。真庭市でも少子、人口減少問題を真摯に受け止め、「こどもまんなか」²の視点により、学校教育や生涯学習の場に文化芸術を取り入れることで施策に反映させ、感性豊かな人材の育成に貢献するとともに、こどもや若者が郷土愛を育めるような環境づくりを推進します。

福祉・医療への応用: 音楽療法やアートセラピーなど、芸術活動は高齢者や障がい者の生活の質の向上に役立つことが知られており、高齢者の生きがいづくりや障がい者アートの振興などを進めています。

都市・地域デザイン: 文化施設 (図書館、美術館、ホール) は、地域住民が集い、交流するまちづくりの核となり、創造的な都市空間の形成に貢献します。真庭市では「公共施設等総合管理計画」に基づいて適正な維持管理や補修を計画的に行い、安全・安心な施設運営を目指します。

¹ 「第3次真庭市総合計画 (令和7年度～令和11年度) 改訂版」(令和7年(2025年)3月策定)p5 第1章 序論「真庭市を取り巻く環境の変化 少子高齢化と急激な人口減少の進行」参照

² 真庭市の「こどもまんなか」とは、国が掲げる「こどもまんなか社会」の実現を地域に根ざした形で進める取組で、真庭市総合計画で示される「多彩で豊かな真庭の生活 (真庭ライフスタイル)」の実現に基づき、こどもたちが家庭や地域の中でかけがえのない存在として尊重され、自らの価値を認めながら成長できるまちを目指します。(「真庭市こども計画」令和7年(2025年)3月策定) p62 第4章 計画の基本的な考え方 第1節 基本理念 参照)

以上のように、真庭市は、豊かな自然や歴史にもとづいた「文化」を背景として、そこから生まれる鑑賞者や表現者による「芸術」の体験や創造を支援することが、真庭独自の持続可能な魅力ある地域社会の形成につながると考えます。そして本計画をもとに、いま、そして未来にこの地域で暮らす人びとへのメッセージとして、「真庭ライフスタイル」を提案していきます。

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の背景と目的

(1)社会状況の変化

令和2年(2020年)に国内でまん延した新型コロナウイルス感染症の影響、少子高齢化と地域社会の変化、デジタル化(DXを含む)の急速な進展、多様性の尊重とグローバル化、ウェルビーイングへの関心の高まりといった社会状況の変化は、文化芸術の価値を「心の豊かさ」や「地域社会の基盤」として再認識させる契機となりました³。

(2)国の動向

文化芸術基本法⁴にもとづき策定された第2期「文化芸術推進基本計画」(令和5年度(2023年度)～)は、文化芸術は単なる娯楽や趣味の域を超え、「心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉」と位置づけ、この方向性にもとづいて、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など異分野との緊密な連携による多角的な価値創出を通じて、我が国社会の持続的な発展が期待されるとしています⁵。この計画の注目すべき点は、文化芸術を振興するだけでなく、文化芸術がもつ「社会を変える力」を重視していることです。

(3)真庭市の方向性(総合計画の理念)

第3次真庭市総合計画(令和7年度～令和11年度)では、計画推進の柱としている「にぎわいにあふれ豊かさを実感できる真庭」の施策の方向性の一つである「文化を楽しめる環境の整備」のために、以下の目標を定めました。①「文化芸術に親しむ環境づくりを推進し、地域住民が芸術を身近に感じられるようにするとともに、文化財の継承と保存に努め、歴史的価値を次世代に伝える取組を推進」。②「共生社会に配慮した文化施設の運営を行い、誰もが利用

³ 「文化芸術推進基本計画(第2期)「価値創造と社会・経済の活性化」(令和5年(2023年)3月策定)のなかで、文化芸術は「心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉となるものである。また、地域社会の基盤を形成し、人々の生活の礎となり、彩りと潤いを与えるもの」(p2「前文」)また、新型コロナウイルス感染症の影響により、人びとの対面での交流が制限されたことで、逆に文化芸術は「人々に安らぎと勇気、明日への希望を与えるものとして、その本質的価値が改めて世界中で認識」(p2「前文」)され、さらにデジタル化の進展が文化芸術の鑑賞機会を広げ、「持続可能性やウェルビーイングといった価値観が普及するとともに、改めて文化芸術の持つ本質的及び社会的・経済的価値の重要性が再認識」されました(p5～p7「第1 我が国の文化芸術を取り巻く状況」参照)。

⁴ 「文化芸術基本法」平成13年(2001年)12月施行

⁵ 前出 注3参照

しやすい環境づくりに取り組むとともに、芸術文化を通じた交流の創出により、文化的価値の向上を図る」。これらを実現するために、5つの重点施策を掲げました⁶。

【真庭市総合計画における文化芸術の重点施策】

- 文化芸術に親しむ環境づくり
- 文化(文化財)の継承と保存
- 多様性を尊重した文化施設の運営
- 文化芸術による交流の創出
- 部活動地域展開の円滑な推進

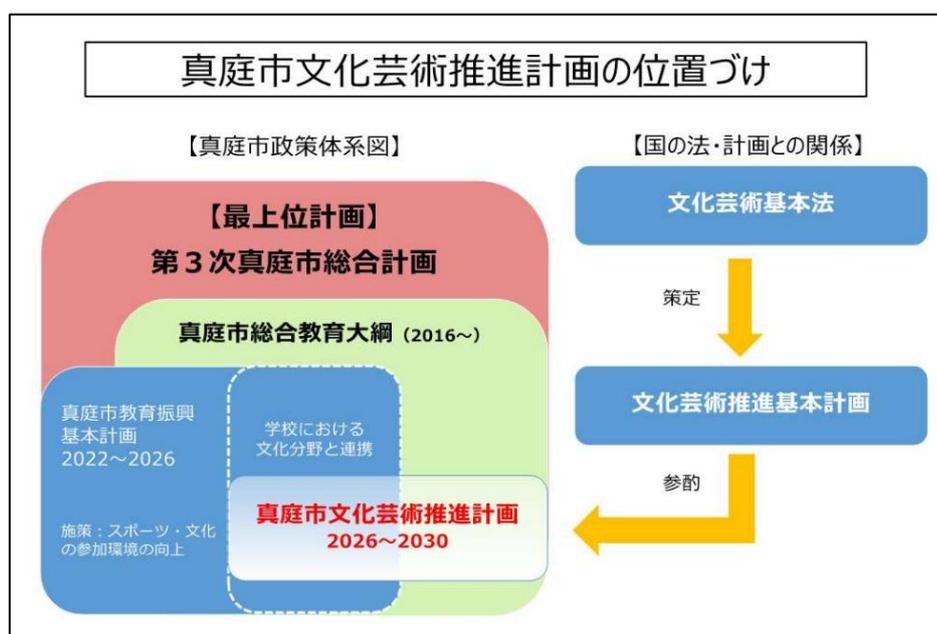
(4)本計画の目的

今回の「真庭市文化芸術推進計画」は、第3次真庭市総合計画の理念に基づき、文化芸術の力によって真庭で暮らす人びとの心の豊かさと多様なつながりを育み、世代や地域を超えた交流を広げながら、市民一人ひとりが自分らしい「真庭ライフスタイル」を実現できるように策定するものです。

2. 計画の位置づけと計画期間、文化芸術の範囲

(1)計画の位置づけ

本計画は、「文化芸術基本法(平成13年法律148号)」において、その地方の実情に即して定める「地方文化芸術推進基本計画」⁷と規定されています。また真庭市の最上位計画である「第3次真庭市総合計画(令和7年度～令和11年度)改訂版」にもとづき、関連する真庭市総合教育大綱、真庭市教育振興基本計画と整合性をとりながら、本市の文化芸術の施策を推進する分野別計画として位置づけます。



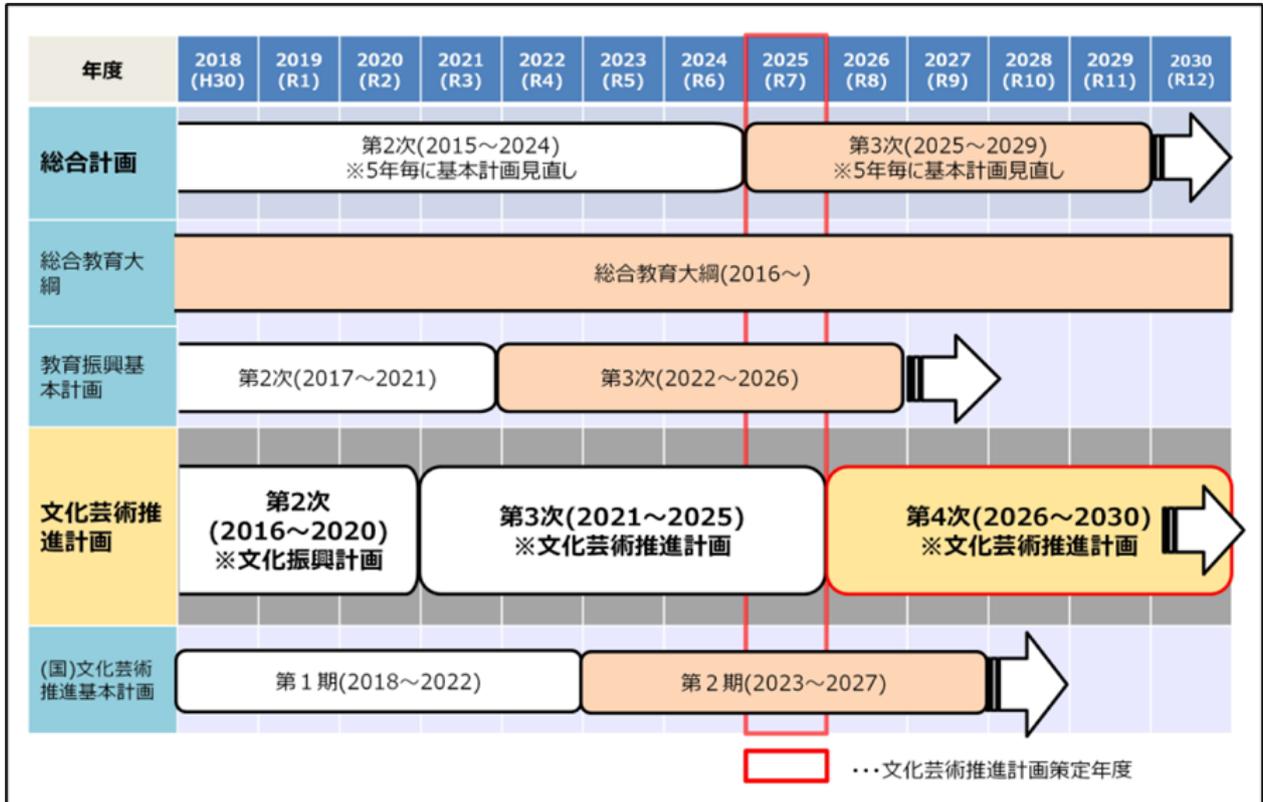
⁶ 前出「第3次真庭市総合計画(令和7年度～令和11年度)改訂版」p55 第3章 基本計画「施策の方向性④：文化を楽しめる環境の整備」参照

⁷ 「文化芸術基本法(平成13年法律148号)」第7条の2(地方文化芸術推進基本計画)「1.都道府県及び市町村の教育委員会(※長が事務を行う場合はその長)は、文化芸術推進基本計画を参酌して、その地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画(以下「地方文化芸術推進基本計画」という)を定めるよう努めるものとする。」

(2)計画期間

本計画の計画期間は令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とします。

また、計画策定の最終年にあたる令和12年度（2030年度）には、これまでの施策の実施状況や社会情勢の変化を踏まえ、計画全体の見直しを実施します。



(3)文化芸術の範囲

本計画における文化芸術の範囲は、下記のとおり「文化芸術基本法」⁸に規定する対象範囲とし、市民が主体となって行う文化芸術活動を広く含むものとしします。

- ・文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術
- ・映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術（メディア芸術）
- ・雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
- ・講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能(伝統芸能を除く。)
- ・生活文化(茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう。)
- ・囲碁、将棋、その他の国民的娯楽
- ・出版物、レコード等
- ・有形及び無形の文化財並びにその保存技術と活用
- ・地域固有の伝統芸能及び民俗芸能(地域の人びとによって行われる民俗的な芸能をいう。)

⁸ 「文化芸術基本法(平成13年法律148号)」第8条から第14条の規定による。

第2章 これまでの取組状況と課題

1. 第3次計画期間（2021-2025）における具体的取組

第3次計画期間においては、真庭市のもつ豊かな自然と歴史的背景を礎に、市民の主体的な活動と行政による振興施策が相互に作用し、多様な文化芸術活動が展開されました。

(1)地域の伝承文化や市民みずからが作り楽しむ文化芸術活動

市民が主役となる活動は、個人の自己実現にとどまらず、地域コミュニティの活性化や郷土愛の醸成に大きく寄与しました。

- ・ **音楽・美術の展開と SNS の活用**：「真庭音楽祭」や「真庭コーラスフェスティバル」といった市民参加型の音楽イベントが定着し、世代を超えた交流の場となりました。美術分野では、市展や工芸展に加え、「杜のアート展」や「灯心会作品展」、さらに「版画寺」として知られる毎来寺や私設ギャラリーでの展示など、日常の空間にアートが溶け込む風景が見られました。また、写真分野ではサークル活動に加え、SNS を活用した「りんくるライン散走」など、現代的な手法を取り入れた発信も行われました。
- ・ **舞踊・演劇・メディア芸術の多様化**：伝統的な日本舞踊から、地域史を題材とした「山中一揆劇団」、多世代が輝くシニアミュージカルまで、幅広い表現活動が展開されました。とくに勝山高校でのダンス部創設や市内のダンス教室の活況は、若年層の表現意欲の向上を示しています。映像分野では中央図書館での「月イチ映画祭」や映画ワークショップ、山崎樹一郎監督作品の上映、ビクトリシアターでの映画上映、フィンランド映画祭の開催など、映画を軸とした独自の文化圏が形成されました。
- ・ **伝統芸能・生活文化の継承**：「備中神楽」や「大宮踊」、「吉念仏踊」各地の盆踊りやだんじり、神輿といった民俗芸能・祭礼は、地域のアイデンティティをささえる根幹として守り継がれています。あわせて、茶道、華道、書道といった生活文化の研鑽や、貴重な文化財の保護・継承活動も継続的に行われました。

(2)市の文化振興事業

行政側も、質の高い鑑賞機会の提供と、持続可能な活動環境の整備に努めました。

- ・ **文化振興・体験事業の推進**：「GREENable HIRUZEN（蒜山ミュージアム）」での企画展や、令和6年（2024年）に開催された「森の芸術祭 晴れの国・岡山」への参画、市制20周年記念事業などを通じ、国内外の優れたアートにふれる機会を創出しました。また、学校等へのアウトリーチ事業や岡山フィルハーモニック管弦楽団との連携、創造都市ネットワークへの参画により、次世代の育成と都市間の文化交流を促進しました。
- ・ **支援体制と地域展開**：文化連盟への補助や「真庭音楽祭」への支援を通じて、市民の自主的な活動を資金・運営の両面からバックアップしました。また、近年の教育環境の変化に合わせ、部活動の地域展開（地域クラブ化）を見据えた取り組みも進められています。
- ・ **文化振興施設の管理運営と活用**：エスパスセンターを中核とし、各地域の文化センターや公民館、さらに「旧遷喬尋常小学校」「勝山文化往来館ひしお」「蒜山郷土博物館」といった歴史的・象徴的施設を拠点として活用しました。これらの施設は、それぞれの個性を生かした様々な分野で、活動の場、発信の場など地域の文化創造のハブ（拠点）として、役割を果たしてきました。

2. 成果指標（KPI）による評価と課題

計画の推進にあたっては、各施策の進捗を客観的に測定するため、重要業績評価指標(KPI)を設定し、定量的な評価を行いました。しかしながら、期間全体(令和3年度～令和7年度)の進捗状況を振り返ると、多くの項目で目標値を下回る結果となりました。(※詳細は資料編に掲載)

(1) 定量的評価の現状

- ・ **芸術・文化体験事業**：「芸術アウトリーチ事業」の参加人数は前回実績を上回ったものの、目標値には届かず、学校現場とのさらなる連携強化が課題として浮き彫りになりました。また、「親子コンサート」等の来場者数も目標を下回っており、少子化の進行やコロナ禍による外出控え、ニーズの多様化が影響したものと分析されます。
- ・ **文化施設への満足度**：市民アンケートによる「地域の文化施設に満足している人の割合」は14.7%にとどまり、前回実績（21%）および目標値(26%)を大きく下回りました。市内の主要7施設のうち4施設が築20年を超えており、施設の老朽化が利用者満足度や魅力の低下に直結している現状が確認されました。
- ・ **新拠点の可能性**：一方で、令和3年に開館した「蒜山ミュージアム」は、年間平均入館者数が21,166人と目標(20,000人)を突破しました。真庭産CLTを活用した「GREENable HIRUZEN」とともに、あらたな文化発信の拠点として、既存施設にはない高い集客力と魅力をもっていることが実証されました。

(2) 真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会における指摘

これらの結果について「真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会」で報告・分析を行ったところ、委員からは以下の点について重要な指摘がなされました。

- ・ **指標設定の限界と妥当性**：「人数」のみを追いかける指標では、個々の活動の質や、市民一人ひとりの幸福感（ウェルビーイング）への寄与度を十分に測ることができないという、定量指標そのものの限界が指摘されました。
- ・ **文化芸術の多様性への配慮不足**：既存の画一的な指標では、近年多様化している「SNSを活用した発信」や「小規模なコミュニティ活動」「生活文化の深化」といった、目に見えにくい文化活動の成果が十分に反映されていないという意見が出されました。

(3) 評価から見えてきた課題

以上の評価を受け、次期計画では数値目標の追求のみならず、活動の質の向上や、多様な文化芸術のあり方を包摂できる評価体系の再検討が求められていることがわかりました。



旧遷喬尋常小学校

3. 文化芸術推進計画アンケート

真庭市民の現状の課題や将来の意向を把握し、第3次総合計画策定の基礎資料とするため、令和6年度にアンケート調査を実施しました。その内、文化芸術に関連するアンケート結果概要は以下のとおりです。(※アンケート結果の詳細は資料編に掲載)

(1) アンケート実施概要

実施時期：令和6年9月

対象：市内居住の16歳以上の男女3,000人（無作為抽出）

回収結果：1,030人（回収率34.3%）

(2) アンケート結果概要

- ・ **鑑賞・参加経験の減少**：この1年間に文化的な催しを「鑑賞・見学した」人は34%、「みずから活動を行った」人は27%にとどまり、いずれも過去2回の調査から減少傾向が続いています。また、全国平均（43%）と比較しても低い水準にあります。
- ・ **障害者アートへの高い関心**：障害のある方の作品鑑賞や活動に参加したことがある人の割合は76.2%に達し、全国値（39.2%）を大きく上回る極めて高い関心・実績を示しています。
- ・ **こどもへの期待**：「こどもが文化に親しむために大切なもの」として30%以上の市民が「学校での体験・鑑賞活動」を挙げ、アウトリーチ事業等の継続を望む声が根強くあります。
- ・ **満足度の低下**：地域の文化施設に「満足している」割合は14.7%と低く、施設の老朽化等が魅力の低下を招いている懸念があります。

(3) アンケート結果から見えてくる課題

アンケート結果から、次期計画において解決すべき以下の課題が抽出されました。

- ・ **「芸術文化離れ」への対策と裾野の拡大**：活動しない理由として「興味がない」「時間がない」に加え、「情報がない」「身近な場所・仲間がいない」という回答が目立ちます。無関心層へのアプローチや、身近な地域で活動できる環境づくりが急務です。
- ・ **情報発信手段の最適化**：「情報が届いていない」という課題に対し、SNSやデジタルツールを効果的に活用し、市民のライフスタイルに合わせた情報発信への転換が求められています。
- ・ **施設満足度の向上**：満足度が低下している既存施設（特に築20年以上の施設）のあり方を検討し、市民が「行きたい」と思える魅力ある空間へのアップデート、あるいは蒜山ミュージアムのような事例を参考にした機能強化が必要です。
- ・ **障害者アート・次世代育成の維持・発展**：全国的に見ても高い関心を示している「障害者の文化芸術活動」を真庭市の特色としてさらに深化させるとともに、市民の期待が高い「学校教育と連携した体験機会」を維持・発展させる必要があります。



NPO 法人灯心会の展示（杜のアート展 2025）

4. 真庭の文化と芸術を考えるワークショップ

(ワークショップの概要)

市民の意見を計画に取り入れるため、令和7年11月7日に「真庭の文化と芸術を考えるワークショップーみんなで作る、これからの真庭の文化ー」を開催しました。中学生から70代まで、仕事や部活など幅広い文化芸術との関わりをもつ28名の市民(男:女比率=5:9)が参加しました。参加者の意見は、文化芸術を「地域をささえ、生活を豊かにする土台」ととらえ、その実現のために「人・コミュニティ」「場・機会」「意識・環境」の3要素を活性化させる必要性を強く示しており、以下のような意見が出ました(※ワークショップの詳細は資料編に掲載)。

(1)「文化芸術」の定義の広がりとの再認識

ワークショップ参加者の意見では、文化芸術を、「特別なイベントや施設内の芸術」に限定せず、「日々の暮らしの中の営み」、「心と生活を豊かにするツール」「感性の表現と自己実現」として定義しています。同時に、真庭の祭りや伝統工芸、自然、醸造文化といった「地域に継承されてきた宝」も重要な要素と認識しています。

(2)「参加と交流」を促す環境の整備

文化芸術を楽しむために必要なのは、「主体性」「好奇心」「心のゆとり」といった個人の意識に加えて、それをささえる「環境」であるという意見がありました。「環境」にはソフト面(人・関係性)とハード面(場・機会)があります。

(3)「つながり」を生むための積極的な仕掛け

文化芸術を通じて人びとがつながるためには、「待つ」のではなく「仕掛ける」姿勢が必要であるという意見がありました(行動と発信、多様な接点をもつこと)。

(計画の方向性について)

ワークショップの結果から導き出された計画の方向性は以下のとおりでした。

- ・**文化振興の3要素**：文化振興には、「人・コミュニティ」「場・機会」「意識・環境」の3要素を一体的に活性化させることが不可欠である。
- ・**「仕掛け」の必要性**：文化芸術を通じて人びとがつながり、関心を広げるためには、「待つ」のではなく「仕掛ける」姿勢が重要である。
- ・**「人」の存在**：活動をささえ、導き、共感し合える「ナビゲーター」や「コーディネーター」といった案内役の存在が求められている。
- ・**「身近な場」の活用**：「温泉×アート」など、市民が普段利用する場でイベントを開催するなど、「興味がない人でも身近なものから」ふれあえる多様な接点の創出が鍵となる。



2025年
11/7(金)
18:00
~19:30

真庭の文化と芸術を考える
ワークショップ
ーみんなで作る、これからの真庭の文化ー

会場：真庭市役所3階会議室

参加者募集

真庭市では、真庭市立公民館機能強化の計画に向けて、市民のみなさんとともに、これからの真庭の文化と芸術のあり方を考えるワークショップを開催します。あなたの声やアイデアが、真庭の未来をつくります。

定員：20名程度(先着)
※抽選に当たった文化活動や、芸術を通じてまちづくりに関心のある方から、どなたでもご参加いただけます。

参加費：無料

申込方法：10月31日(金)17:00

申し込みフォーム(インターネットURL)
<https://appy.suricata.jp/true-matsumoto-shiawahan>
申し込みフォーム(二次配布シート)

申込：10月31日(金)17:00まで
氏名・居住地の郵便番号を記入してください

お問い合わせ先：真庭市文化振興課 入会・ワークショップ係(担当：大島)
TEL：0899-42-1178 FAX：0899-42-1116



真庭の文化と芸術を考える
ワークショップ 結果概要

2025年
11/7(金)
18:00~19:30
会場：真庭市役所3階会議室

ーみんなで作る、これからの真庭の文化ー

参加者数(性別)傾向

性別	参加者数
男性	5
女性	9
その他	14

本日は4組やグループワークショップを行いました。はじめに、参加者と参加者の縁を繋いでいくこと、仕事や交友など幅広い経験を持った参加者が集まりました。

5. ヒアリングの実施～真庭市での文化芸術の楽しみ方、つながり方に関する調査～

令和7年12月11日～12月26日にわたり7名の有識者、文化施設職員、文化芸術イベント等の主催者などを対象にヒアリングを実施しました。ヒアリングの結果、真庭市の文化芸術の現状、課題、そして未来への展望について以下の5点が重要であることがわかりました。

(1)「真庭ライフスタイル」と文化芸術の融合

真庭市が掲げる「真庭ライフスタイル」を実現するためには、作品を鑑賞するだけでなく、日常生活の中に文化芸術が溶け込んでいる状態を目指すべきという意見が多く見られました。

- ・**心の豊かさ**：効率や経済性だけでなく、自己表現や地域への愛着を育むツールとしての文化。
- ・**多様性の受容**：異なる価値観をもつ人びとが文化芸術を通じて対話し、共生できる土壌づくり。

(2)若年層へのアプローチと次世代育成

持続可能な文化振興のため、以下のような子どもや若者が文化芸術にふれる「きっかけ」作りが急務とされています。

- ・**体験の場の創出**：学校教育との連携や、若者が主体となって企画できるイベントの支援。
- ・**デジタル活用**：若い世代に響く情報発信や、デジタル技術をかけあわせた新しい表現方法の模索。

(3)文化施設の役割の変化とネットワーク化

ハコモノ（施設）の運営から、「人と人がつながる拠点（コミュニティハブ）」への転換が求められています。

- ・**施設の連携**：各文化施設が自立性をもちながらも、情報を共有し、市全体で面的な活動を展開する。
- ・**専門人材の活用**：イベントを企画・マネジメントできる専門スタッフ（アートマネージャー等）や活動を支える舞台技術スタッフの育成や外部登用。

(4)地域資源の再発見と情報発信

真庭独自の歴史、伝統芸能、豊かな自然を「文化資産」として再定義し、磨き上げる必要性が強調されました。

- ・**独自性の追求**：どこにでもあるイベントではなく、「真庭でしかできない体験」への昇華。
- ・**戦略的な広報**：市内だけでなく市外・県外へ、真庭の文化的な魅力を届ける発信力を強化。

(5)持続可能な支援体制と「担い手」の確保

イベント主催者や文化団体が直面している「高齢化」や「資金不足」に対する現実的な支援が必要で

- ・**ボランティアの仕組み化**：特定の個人に負担が集中しない、市民が参加しやすい協力体制の構築。
- ・**官民連携**：行政の補助金に頼り切るのではなく、企業協賛やクラウドファンディングなど、多様な財源確保の検討。

(まとめ)

ヒアリング結果から、「つくる・観る・ささえる」のサイクルを、市民一人ひとりが自分事としてとらえられる仕組みづくりが期待されていることがわかりました。

6. 課題の抽出

第3次計画期間（2021-2025）の取組実績、成果指標（KPI）の推移、市民アンケートに加え、有識者ヒアリングおよび市民参加型ワークショップ（WS）で得られた多角的な意見を分析し、次期計画において解決すべき課題を以下の4点にまとめました。

(1)「消費されるエンターテインメント」から「日常を豊かにする文化芸術」への転換

市民アンケートでは「文化芸術への無関心」が浮き彫りとなりましたが、WSやヒアリングでは、文化芸術を「特別なイベント」ではなく「日常の営み」や「心の豊かさ」という視点からとらえるべきという本質的な指摘が多くありました。これまでは、市外から著名な芸術家を招いて「与えられるもの」を楽しむという受動的・消費的な側面が強く、自分たちの生活をより良くする「内面への落とし込み」が不十分であったことが課題として見えてきました。市民が日常の延長線上で、みずからの「美意識」や「知的好奇心」を育むための接点をどう創出するかが問われています。

(2)「場」の老朽化と、施設を「居場所」へアップデートする機能転換

既存の文化センター等の満足度低下（14.7%）は深刻であり、施設の老朽化だけでなく、そのあり方自体に課題があると考えられます。WSでは「温泉×アート」や「学校の授業への導入」など、普段の生活空間を文化芸術の「場」にするアイデアが多く出されました。八コモノの維持管理だけではなく、蒜山ミュージアムのような「強いコンセプトをもつ拠点」と、市民が日常的に集い、対話が生まれる「サードプレイス（居場所）」としての身近な施設活用へのアップデートが必要です。

(3)専門的な「つなぎ手（コーディネーター）」の圧倒的不足

ヒアリングでは、複数の専門家から「作家と鑑賞者を仲介するコーディネーターの重要性」が指摘されました。市民が「興味がない」と答える背景には、作品を理解するための「補助線」や「語り合う仲間」が不足している現状があります。活動が行政の助成金頼みの「一過性のイベント」で終わってしまうのを防ぎ、自立的・持続的な活動へと導くための「案内人」や、人と活動をつなぐマネジメント人材の育成・確保が、次期計画の最重要課題の一つです。

(4)多様性の受容と、変化を許容する「伝承」の仕組みづくり

本市の強みである「障害者アート」への関心の高さや、伝統芸能への愛着は、真庭らしい共生社会の土壌を示しています。しかし、伝統文化については「上の世代からの押しつけ」が若年層の心理的障壁になっているとの指摘もありました。伝統を固定化して守るだけでなく、新しい感性や多様な価値観による「変化（革新と再生）」を許容し、若者が「みずから関わりたい」と思える柔軟で開かれた継承の仕組みづくりが求められています。



小学生・中学生音楽コンサート（エスパホール）

第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本目標

「文化芸術を通じて、さまざまな個性を認め合い、こころの豊かさを実感できるまにわをつくる」

本目標は、第3次計画の基本目標である「文化を通じてお互いを認め合える社会をつくる」という理念を継承しつつ、さらに一歩進め、共生社会の実現、多様性の尊重、そして持続可能な地域社会の構築という視点を加えたものです。

一人ひとりが文化芸術にふれ、自分とは異なる価値観や感性（個性）を知ることを通して、さまざまな個性を認め合い、日常生活のなかで、みずからの美意識を磨き、知的好奇心を高め、まにわに暮らすことの意味やこころの豊かさを実感できる社会を目指します。

2. 基本方針

【方針 1】あらたな文化芸術を体験し、感動があふれるまにわ

視点：無関心層へのアプローチ、場と機会の創出

文化芸術を「特別な場所で行われる特別なもの」から、「日常のあらゆる場面で出会えるもの」へと転換します。

- 「待ち」から「仕掛け」への転換：既存の文化施設での開催に加え、温泉、カフェ、公共空間、あるいはデジタル空間など、市民の生活動線上に文化芸術を「仕掛ける」ことで、これまで関心の薄かった層が予期せず感動に出会える機会を創出します。
- 知的好奇心を刺激する体験：消費する「楽しさ」だけでなく、多様な文化や作品の背景を知り、みずから考え、人と対話する機会を設けることで、深く持続的な「まなび」につながる体験を提供します。

【方針 2】文化芸術を通じて人と地域がつながるまにわ

視点：異分野連携、「仕掛け」による交流の創出、多様性の尊重

文化芸術を「結び目」として異なる属性の人びとや地域課題が交差する仕組みを構築します。

- 異分野とのかけあわせによる価値創造：教育・福祉・環境・観光・産業などの各分野と文化芸術を連携させ、地域課題の解決やあらたなビジネス・コミュニティの創出を促進します。
- 「つなぎ手」による交流の活性化：表現者と市民、あるいは市民同士を仲介し、活動を継続的なムーブメントへと導く「コーディネーター」や「案内人」の役割を重視し、人と地域が有機的につながる場（MANIWA BAUM⁹など）をデザインします。
- 多様性を認め合う共生社会の推進：障害者アートの振興など、誰もが安全に創作・発表でき、互いの違いを豊かさとして受け入れ合える包摂的な環境を整備します。

⁹ MANIWA BAUM（まにわぼうむ）

真庭の歴史・文化を紐解き、地域や世代や分野が横断的に出会い直し、対話を軸に、新たな価値創出をはかる超有機的コミュニティ。2024年に岡山県北を舞台に開催された「森の芸術祭 晴れの国・岡山」を契機に組織された。

【方針 3】 真庭固有の文化資源を創造的に活かし育むまにわ

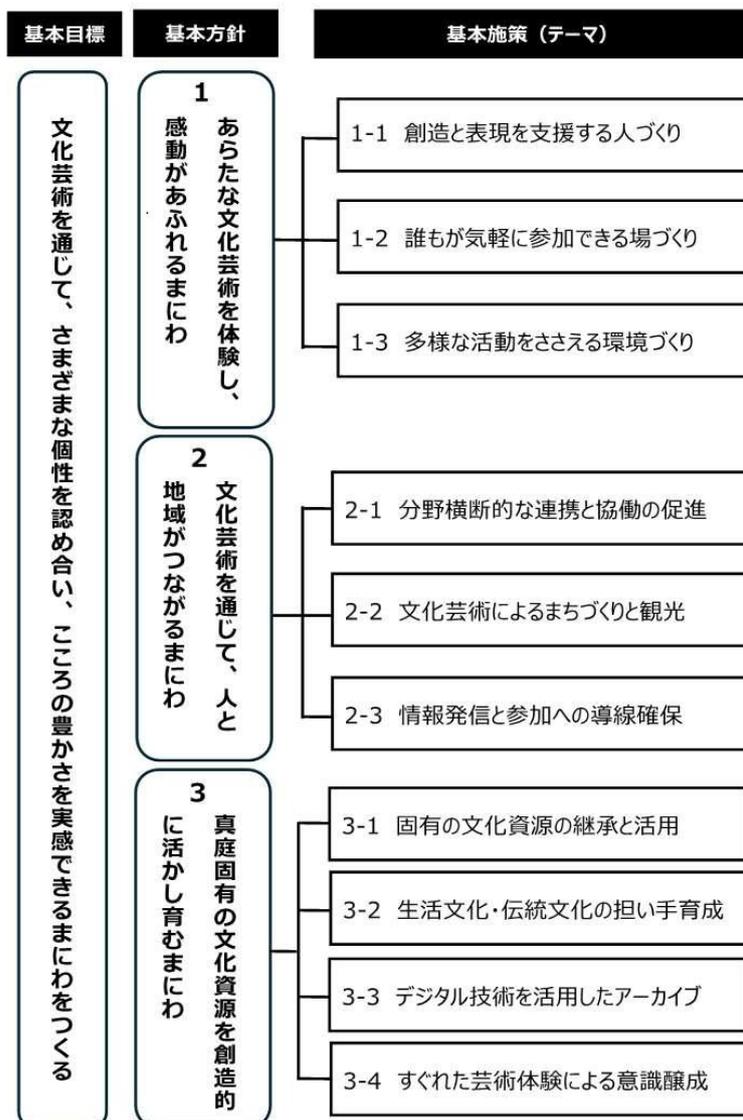
視点：伝統文化の継承、地域の宝の再認識、「こどもまんなか」

真庭に息づく歴史や伝統を「地域の宝」として再認識し、今の時代の感性を取り入れながら未来へつなぎます。

- 創造的な継承の仕組みづくり： 伝統芸能や民俗文化を形通りに残すだけでなく、若い世代の新しい感性やアイデアを許容し、現代のライフスタイルに融合させた「生きた伝承」を支援します。
- 「こどもまんなか」の文化教育： 次世代を担うこどもたちが本物の芸術や地域の文化遺産にふれる機会を確保し、学校や地域が一体となってこどもたちの創造性や郷土愛を育む環境づくりを推進します。
- 文化資源の多角的な活用： 歴史的建造物や伝統工芸を観光や教育、まちづくりの中心に据え、真庭ならではの文化的価値を市内外に発信することで、観光や地域経済の活性化と地域への誇り（シビック・プライド）の醸成を図ります。

3. 計画の体系

計画の体系は、基本目標にもとづく3つの基本方針と、10の基本施策(テーマ)で構成します。



第4章 具体的な取組

基本目標にもとづく3つの基本方針を推進するため、下記の施策テーマによって施策を実施します。各施策テーマの右に具体的な取組を示しています。

基本方針	基本施策(テーマ)	具体的な取組
【方針 1】 あらたな文化芸術を体験し、感動があふれるまにわ	創造と表現を支援する人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化芸術活動を指導・支援する人材を育てます。 ・こどもたちの文化活動をささえる地域文化クラブの設立・運営を支援します。(部活動の地域展開)
	誰もが気軽に参加できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加できる文化交流の場づくりを推進します。 ・いろいろな国や地域の文化をまなぶ機会を提供します。
	多様な活動をささえる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールを活用し、文化芸術にかかる情報をいつでも得やすい環境づくりを推進します。 ・誰もが安全に創作や発表ができる場をつくり、それを支える人材を育成します。
【方針 2】 文化芸術を通じて人と地域がつながるまにわ	分野横断的な連携と協働の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校などさまざまな人が文化活動を通じて協働できる場を提供し、「つなぎ手(コーディネーター)」の人材づくりを応援します。 ・アーティストの滞在制作などを通じて、あらたな価値を創造し地域交流を深めます。
	文化芸術によるまちづくりと観光	<ul style="list-style-type: none"> ・「森の芸術祭」を契機としたあらたな協働のしくみを展開していきます(MANIWA BAUMを基盤として)。 ・「GREENable HIRUZEN」(蒜山ミュージアム)、市民センター(およびホール)、公民館、図書館、蒜山郷土資料館などの文化施設を拠点に、芸術文化の発信と交流を進めます。
	情報発信と参加への導線確保	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報や市民の活動を、SNSやインターネットを使って、たくさんの人に、わかりやすく届けます。 ・観光施設と文化施設の連携と情報共有により、それぞれの施設に人の流れを生んでいきます。

【方針 3】 真庭固有の文化資源を創造的に活かし育むまにわ	固有の文化資源の継承と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・文化資源を守り、後世へ引き継いでいきます。 ・歴史や文化財の魅力を発信していきます。 ・地域の文化資源を活用した観光メニュー開発に取り組みます。
	生活文化・伝統文化の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活や伝統を交流しながら伝える場を設けます。 ・地域の生活や伝統を伝えていく伝承者を育成します。
	デジタル技術を活用したアーカイブ化	<ul style="list-style-type: none"> ・真庭市の文化資源（歴史、祭り、芸術作品など）に関するデジタルコンテンツの整備を目指します。
	すぐれた芸術体験による意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが幼少期からすぐれた芸術にふれる機会を提供します。 ・これまで実施してきた子ども向けの音楽・映画などの鑑賞・創作体験型事業をさらに充実させ、子どもたちが主体的に関わる場をつくりま す。

第5章 計画の推進のために

1. 推進体制の構築

(1) 全庁的な連携体制の構築

本計画は、市の文化芸術振興を推進するための方針となるものです。文化芸術に関する施策は、ひとつの部署にとどまらず、教育、福祉、まちづくり、観光施策等と積極的に連携していく必要があります。そのために関係部署が横断的に連携、調整を行い、全庁的な推進体制を目指します。

(2) 真庭エスパス文化振興財団に期待される役割

公益財団法人真庭エスパス文化振興財団は、「文化の薫り豊かな潤いと活力ある地域社会の創造と発展に寄与することを目的」¹⁰に掲げて設立されました。当財団はこれまで、市民の文化芸術活動を支える中核組織として舞台・照明・音響等の専門的な技術や知識を有し、これを活かして、真庭市久世エスパスセンターのみならず、市内の他のホール管理や、舞台芸術、イベントの実施、そして地域や学校に出向き、様々な世代が一流の音楽・演劇・ダンスなどにふれる機会を創出する事業など、市の文化芸術施策を形にする実行機関として様々な取組を行ってきました。今後は、中学生の部活動地域展開の受け皿となる地域文化クラブ運営や、市内で活動する文化振興団体を統括する役割が特に期待されています。

¹⁰ 「公益財団法人真庭エスパス文化振興財団定款」第2章第3条（目的）より

(3) その他文化芸術団体との連携

真庭市交流体験施設匠蔵（勝山文化往来館ひしお）は歴史と伝統ある勝山町並み保存地区の美しい景観と調和した建物であり、趣のあるギャラリーや併設されたカフェは勝山を訪れる観光客を集める人気スポットです。この建物を管理運営する特定非営利活動法人勝山・町並み委員会は、匠蔵での展示企画やコンサート、市民参加型のワークショップなどを開催し、世代を超えたアート体験を提供しています。

このほかにも、市内7地区（北房・落合・久世・勝山・美甘・湯原・蒜山）で活動する各文化協会や地区を超えた真庭市文化連盟専門部の活動は、多様な趣味を通じた生涯学習の場として重要であり、居場所づくりや、生きがい創出の場として地域活性化に果たす役割は大きいといえます。

また近年、民間の団体や法人が運営するギャラリーやイベントスペース、そして空き家を活用した映画館なども徐々に増えており、行政の枠に縛られない自由で個性的な芸術文化の場や機会の創出が行われています。

真庭市の豊かな文化芸術を次世代へつなぎ、持続的に市民の創造性を育むためには、こうした裾野の広い文化芸術団体と市や地域との連携や、きめ細かなサポートが必要です。

(4) 市民・関係団体との協働体制の推進

アンケート・ワークショップ等で示された市民の主体的な意見を施策に反映するため、市民や文化芸術団体、民間企業、学校、市など多様な主体との協働プラットフォームを構築し推進を図ります。

(5) 計画内容の広報・啓発

関係者が協働して計画の実現を図るため、市民や関係団体、企業等に対してさまざまな媒体や機会を活用して積極的に広報を行い、計画内容の周知を行います。また、ワークショップなどを活用し、市民への文化芸術への意識醸成を行います。

2. 進行管理

(1) 評価指標の見直しと定性的・多角的指標の導入

第2章において示したように、従来の定量的指標では個々の活動の質や、市民一人ひとりの幸福感（ウェルビーイング）への寄与度を十分に測ることができないという限界があります。こうした限界を踏まえ、本計画では第2章に示した定量的指標（詳細は資料編 p1～p2「第3期計画期間における実績・評価」KPIを参照）を定期的に測定するとともに、本計画の施策に基づいた具体的な取組が文化芸術の人や場や環境がどう影響し、市内の文化芸術の環境がどう変化したかを定性的・多角的に観察し、日常における文化芸術への興味関心の萌芽や、規模は小さくとも、都会にはない、真庭のオリジナルな文化芸術活動への胎動を見逃さず、きめ細かなサポートや新たな施策の展開につなげていきたいと考えています。

そこで、定期的に市民アンケート調査やヒアリングを行い、以下のような視点を手がかりとして、市民などの意識の変化を具体的に探っていきます。

- ① これまで文化芸術に関心のなかった層が、日常のなかで気軽に文化芸術に触れるようになるきっかけとなったこと
- ② 文化芸術による異分野(教育・福祉・環境・観光・産業など)との交流連携や、障害者、外国人、性的マイノリティなど多様性を認める社会への貢献度
- ③ 「真庭の歴史や文化を通じたシビックプライドの醸成」、「若者や子どもたちが主体的に関わ

る文化芸術の場や機会の提供」がなされているか

(2)計画の進行管理（CAPD サイクル）

評価指標をもとに定期的な進捗状況の点検・評価を実施し、真庭市総合戦略アクションプランとの整合性を図ります。

計画の円滑な推進のためには、これらの管理・評価を一連のつながりの中で実施することが重要です。現状分析と評価（CHECK）に基づき、現行施策の見直し改善（ACTION）を図り、目標を定め具体的な事業を立案（PLAN）し、実践（DO）する、「CAPD サイクル」により、有効性・効率性の高い施策実施を目指します。



GREENable HIRUZEN（蒜山ミュージアム） ©川澄・小林研二写真事務所

真庭市文化芸術推進計画

資料編

- ・ 第3期計画期間における実績・評価・・・・・・・・・・ 1
- ・ アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・ ワークショップまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・ ヒアリングまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- ・ 市内文化芸術施設の利用状況（R3～R6）・・・・・・ 26
- ・ 用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- ・ 計画策定の経緯（会議等の開催実績）・・・・・・ 28
- ・ 委員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

◆第3期計画期間における実績・評価

基本方針1（1） 文化芸術を楽しむ心を育成します

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R3～R7平均)	実績・KPI達成状況 (R3～R6平均)	前回実績値 (H28～R2平均)	目標値の考え方
芸術アウトリーチ事業 参加人数（人／年）	1,700人	1,647人	1,604人	参加者／市内全小・中学生(将来推計数)の約10%増を目指す
（説明）芸術アウトリーチに参加した児童・生徒の人数				
親子コンサート 来場者数（人／年）	340人	242人	290人	参加者／市内未就学児(将来推計数)の約10%増を目指す
（説明）市主催の親子コンサートを鑑賞した観客の人数				

【評価】市では、市内小中学校に芸術家・音楽家を招いて芸術アウトリーチ事業を行うことで、次世代を担う子どもたちに質の高い文化芸術体験を提供している。参加者は前回実績値と比較して2.7%の増加となっているが、目標値（10%増）には届いていないため、各学校へ文化芸術教育へのさらなる理解を求め、連携を強化していく必要がある。親子コンサートは未就学児を対象として、岡山フィルハーモニック管弦楽団を招き市内ホールで毎年開催しているが、出生率低下の影響もあり目標値に達していない。今後は子育て世代の興味、関心を引く周知・広報の仕方を含めた事業の見直しを検討すべきである。

基本方針1（2） 文化芸術を行う人や団体を育成します

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R7)	実績・KPI達成状況 (R7)	前回実績値 (R2)	目標値の考え方
文化連盟構成団体数 (専門部を含む)	233団体	169団体	233団体	人口ビジョンによる市の人口減少を加味した上で現状維持を目指す
（説明）真庭市文化連盟構成団体数				
1年間に文化的な催しを鑑賞・見学・体験した市民の割合	50%	34% (R6アンケート)	42%	市民の過半数を目指す
（説明）真庭市文化芸術推進計画アンケート結果数値				

【評価】真庭市文化連盟は、真庭市における芸術、文化団体との相互連携と自主的活動の充実促進を図り、芸術・文化の普及・振興に寄与することを目的とし、市内の各文化協会に所属する文化団体および専門部により構成される（「真庭市文化連盟規約」）。近年は文化団体の会員数減少に伴い、活動が続けられなくなる団体が増加したため、実績値は目標値の約73%に止まっている。また、市民アンケートによると、1年間に文化的な催しを鑑賞・見学・体験した市民の割合も前回実績値から8%減少、目標値を16%下回る結果となっている。

これらの結果は、コロナウイルス感染症拡大による影響に加え、市民の文化芸術への関心の低さも示している。したがって、市民への文化芸術への興味関心を惹起し、文化芸術に親しみ、体験することとおして真庭ライフスタイルの充実を図るため、今後は市内の文化振興、発展に寄与してきた市内文化団体をより一層活性化していく必要がある。

基本方針1（3） 貴重な伝統文化を継承し教育委員会と連携して活用します

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R3～R7平均)	実績・KPI達成状況 (R3～R6平均)	前回実績値 (H28～R2平均)	目標値の考え方
旧遷喬尋常小学校 来場者数（人／年）	18,500人	13,463人	18,500人	感染症拡大による影響を鑑み、現状維持を目指す
（説明）旧遷喬尋常小学校来場者数				
旧遷喬尋常小学校 活用イベント参加者数（人／年）	2,600人	4,201人	2,600人	感染症拡大による影響を鑑み、現状維持を目指す
（説明）旧遷喬尋常小学校活用イベント参加者数				

【評価】国重要文化財である旧遷喬尋常小学校は令和3年度に整備・活用基本構想を策定し、令和5年度に保存活用計画を策定した。コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、来場者数実績は目標値の約73%に止まった。一方で魅力発信を目的としたイベントや情報発信を毎年実施しており、イベントへの参加者は目標値の160%を超え、関心の高さがわかる。今後は保存活用計画に沿って工事を進めていくことになるが、令和7年度開始した調査工事との調整を図りながら校舎を活用したイベントやプロモーションを引き続き展開し、整備支援の機運を高め、100年に1度の大改修を広く市内外に周知していく必要がある。

基本方針1（4） 真庭らしい地域文化を育成します

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R3～R7平均)	実績・KPI達成状況 (R3～R6平均)	前回実績値 (H28～R2)	目標値の考え方
木をテーマにした企画展開催数	1	1	－	年に1回の開催を見込む
（説明） 蒜山ミュージアムでの開催数				

【評価】 真庭市の面積の約8割を占める森林は主要な資源であり、産業、景観、文化、暮らしに密接に関わっている。森林や木材の価値を高める文化芸術を推進、支援するため、蒜山ミュージアムにおいて冬期展示として毎年12月から翌年3月まで隈研吾建築資料の展示を行ってきた。

今後はさらなる木をテーマとした企画展を開催し、真庭の地域資源である木の魅力を広く発信していく必要がある。

基本方針2（1） 多彩な文化芸術の創造と多様な文化施設の運営を行います

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R7)	実績・KPI達成状況 (R6)	前回実績値 (R2)	目標値の考え方
地域の文化施設に満足している人の割合	26%	14.7% (R6アンケート)	21%	施設整備により5%増加を目指す
（説明） 真庭市文化芸術推進計画アンケート結果				
蒜山ミュージアム入館者数（人/年）	20,000人	21,166人	－	※令和3年7月開館、年間2万人の入館者数が目標
（説明） 蒜山ミュージアム入館者数				

【評価】 令和6年度に市民を対象としたアンケートでは、地域の文化施設に満足している人の割合が14.7%で、前回実績値（21%）と目標値（26%）をいずれも下回っている。市内の主な文化施設（北房文化センター、落合市民センター、勝山文化センター、湯原ふれあいセンター、久世エスパスセンター、交流体験施設匠蔵、蒜山ミュージアム/7施設）のうち、4施設が築20年を超えており特に古い施設に関しては、利用者にとっての魅力が低下していることが考えられる。

一方で東京オリンピックのレガシーとして真庭産CLTをリユースして造った美術館「蒜山ミュージアム」が令和3年7月に開館し、コロナ禍の時期にもかかわらず入館者数実績は目標値の年間20,000人を超え、年平均21,166人と好評であった。同じく東京オリンピックのレガシーとして敷地内に移設された観光文化発信拠点パビリオン「GREENable HIRUZEN」とともに蒜山観光において最も魅力ある目的地となっている。今後はこうした魅力ある文化施設を中心として魅力的な文化芸術企画を行うと共に、既存の文化施設にユニバーサルデザインを取り入れ、利用者の利便性、環境への配慮や衛生向上のための修繕を行い、幅広い利用者に親しまれる施設整備を推進していく必要がある。

基本方針2（2） 文化芸術による交流を広げます

重要業績評価指標（KPI）	目標値 (R3～R7平均)	実績・KPI達成状況 (R3～R6平均)	前回実績値 (R1)	目標値の考え方
市ホームページでの文化芸術情報の発信回数（回/年）	17回	12回	15回	年平均約10%増加を目指す
（説明） 真庭市公式ホームページでの文化芸術情報の発信回数				
文化施設利用者数（人/年）	156,000人	119,026人	151,317人	人口ビジョンによる市の人口減少を加味した上で約10%増加を目指す
（説明） 北房文化、落合市民、勝山文化、湯原ふれあい、久世エスパスセンター、匠蔵の実数（蒜山ミュージアム入館者数を除く）				

【評価】 市ホームページでの文化芸術情報発信回数の実績は12回と、目標値17回を下回った。蒜山ミュージアムを除く市内の主な文化施設の年間利用者数は目標値の約76%、前回実績値も下回る結果となった。施設利用者減の原因としては施設老朽化による利便性の低下と、コロナウイルス感染症拡大による影響が考えられる。徐々に施設利用者は戻りつつあるが、未だコロナ前の水準までには回復していない。

こうした結果を踏まえ、市民や関係団体・組織・企業等に対して、さらに様々な機会、媒体を利用しての広報・発信により、真庭市の伝統文化や文化芸術の魅力を伝えていくことが求められる。

◆文化芸術推進計画アンケートの結果と検証

(H23,H27,R2 との比較)

(1) 調査概要

- 1) 調査地域 真庭市全域
- 2) 調査対象 真庭市に住民票を有する満 16 歳以上の男女 3,000 人を無作為抽出
- 3) 調査方法 郵送
- 4) 実施時期 令和 6 年 8 月 15 日～9 月 6 日

(2) 回収結果

- 1) 有効回収数 1,030 人
- 2) 回収率 34.3% (前回 48.7%)

(3) アンケート結果

1) 市民アンケートの傾向

アンケート調査から特徴的な事項をピックアップし、課題を分析しました。表中の数字は全て、有効回答数における割合を示しています。

Q：この1年間に文化的な催しを鑑賞・見学（・体験）しましたか。

回答	H23 年	H27 年	R2 年	R6 年
はい	70%	52%	42%	34%
いいえ	30%	48%	58%	66%

Q：文化的な催しを鑑賞・見学（・体験）する事以外で、日頃から文化に親しんでいる事がありますか。

回答	H23 年	H27 年	R2 年	R6 年
はい	57%	26%	33%	27%
いいえ	42%	74%	67%	73%

真庭市では「この1年間に文化的な催しを鑑賞・見学しましたか。」の問いに「はい」と答えた人は、前々回、前回より下がり 34%となり、全国値（文化庁「文化に関する世論調査 令和6年度調査」）の 43%と比べ下回っています。また、「文化的な催しを鑑賞・見学する事以外で、日頃から文化に親しんでいる事がありますか。」の問いでは、「はい」の割合が前回より下がり 27%となり、H23 年調査と比べると大きく減っています。

Q：文化的な催しを鑑賞・見学しなかった理由。

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
時間がない	37%	44%	31%	27%
興味がない	27%	29%	24%	41%
お金がかかる	12%	9%	6%	9%
遠い、交通手段がない	12%	9%	12%	10%
当日、都合が悪かった	12%	9%	13%	9%
その他	—	—	14%	4%

Q：日頃から文化に親しんでいる事がない理由。

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
時間がない	31%	48%	27%	21%
身近な活動場所がない	18%	21%	25%	18%
興味がない	12%	15%	20%	22%
情報が無い	13%	6%	11%	14%
お金がかかる	10%	6%	2%	10%
近くに仲間がいない	12%	4%	10%	13%
その他	4%	4%	5%	2%

「文化的な催しを鑑賞・見学しなかった理由」として、前々々回、前々回、前回を通じて上位を占める「時間がない」は21%と減少しているものの、「興味がない」が41%と大幅に増加している点が特徴です。その他が前回の14%から今回は4%と大幅に下がり、前回は「その他」の理由の約3割がコロナウイルス感染症拡大の影響と回答していましたので、コロナウイルス感染症の沈静化によりその割合が「興味が無い」へ理由が移っていったとも考えられます。「日頃から文化に親しんでいる事がない理由」も「興味がない」が22%、「時間がない」が21%、「身近な活動場所がない」が18%、と上位となっています。

文化芸術に「興味がない」という傾向は全国調査においても23.2%と最も高く、真庭市でも同様に22%と最も高くなっています。無関心層が恒常的に文化芸術に関心をもってもらうための取組みと工夫が必要です。

Q：日頃から文化に親しんでいる事の技術・知識・能力を向上させたいですか。

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
どちらかといえば向上させたい	44%	46%	49%	37%
向上させたい	40%	30%	28%	42%
どちらかといえば向上しなくてもよい	8%	13%	15%	15%
向上しなくてもよい	5%	9%	8%	6%
無回答	3%	2%	0%	0%

前回までと異なり「向上させたい」が「どちらかといえば向上させたい」を上回って最上位になっています。「日頃から文化に親しんでいる」人の大多数が、技術・知識・能力を向上したいと考えている傾向は大きくは変わっていませんが、地域文化クラブ活動等の継続的な場の確保が求められます。

Q：技術・知識・能力を向上させるために必要なこと。

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
時間と経済的なゆとり	65%	58%	46%	55%
教室やサークル	15%	22%	16%	10%
プロの先生の指導	11%	11%	13%	17%
発表や活動の場	9%	9%	13%	14%
有償出展・出場の場	—	—	3%	1%
その他	—	—	9%	3%

「日頃から文化に親しんでいる」人で技術・知識・能力を向上させるために「時間と経済的なゆとり」が必要と答えた人の割合は減少傾向にあった前回から再び増加に転じ、「プロの先生の指導」、「発表や活動の場」が必要と答えた人も増加しています。前回同様、市民の更に高い文化レベルへの希求がうかがえます。今後も、文化芸術を楽しみながらスキルアップに取り組めるゆとりや環境の整備が求められています。

Q：子どもがより文化に親しむために大切なもの

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
学校での体験活動	21%	20%	17%	19%
学校以外での鑑賞・体験機会の充実	20%	18%	19%	17%
学校での公演や美術作品の鑑賞	16%	15%	14%	15%
地域の伝統芸能の体験	5%	14%	16%	17%
ふるさとの歴史文化についての学習	19%	13%	14%	14%
地域での文化活動の開催	12%	11%	11%	11%
様々な文化に関する習い事	7%	7%	8%	7%
その他	—	2%	1%	0%

「子どもがより文化に親しむために大切なもの」の問いには、「学校での体験活動」と「学校での公演や美術作品の鑑賞」が30%以上を占めており、傾向にはおおむね変わりがありません。全国調査でも30%以上が同様の取組みを重要と考えています。引き続き芸術アウトリーチ事業等で、子ども達がすぐれた芸術文化に触れる機会を創っていく必要があります。

Q：真庭市の文化振興で大切なもの

回答	H23年	H27年	R2年	R6年
子どもが文化に親しむ機会の充実	21%	27%	20%	20%
気軽に文化に触れる機会の充実	20%	15%	17%	16%
文化施設の整備・充実	9%	12%	10%	12%
一流の芸術家の作品等の鑑賞	9%	11%	12%	12%
民俗芸能、文化財の保存活用	13%	11%	12%	13%
地域の文化を活用した街づくり	15%	11%	12%	12%
文化に関する積極的な情報発信	8%	9%	8%	8%
文化団体の活動支援	3%	2%	3%	2%
地域の芸術家の支援	2%	2%	3%	3%
特に必要は無い	—	—	2%	2%
その他	—	—	1%	0%

「真庭市の文化振興で大切なもの」の問いには、「子どもが文化に親しむ機会の充実」が最多で、「気軽に文化に触れる機会の充実」、「文化施設の整備・充実」、「一流の芸術家の作品等の鑑賞」等が続く傾向に大きな変化はありません。また「民俗芸能、文化財の保存活用」、「地域の文化を活用した街づくり」

がこれらに続いており、地域のアイデンティティを求める傾向も特徴として挙げられます。

全国調査においては文化的環境充実のために必要なこととして「文化施設の充実」が19%、続いて「子供が文化芸術に親しむ機会の充実」が13%、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」が13%という割合を示しています。

真庭市においても「気軽に文化に触れる機会の充実」と並行して、市民が民俗芸能と文化財の保存活用に興味関心を持つきっかけづくりが求められます。

Q：あなたは、障がいのある方のアート作品（絵画・造形等）や演劇、ダンスなどの芸術活動について、これまでに鑑賞や参加などしたことはありますか。

回答	全国(R6)	真庭市(R6)
アート作品を見たことがある	11%	24%
演劇・ダンス等の公演を見たことがある	5%	3%
ワークショップに参加したことがある	4%	4%
街中などでの展示やパフォーマンスを見たことがある	6%	5%
直接見たことはないが、テレビやインターネット、新聞、雑誌などで見たりきいたりしたことはある	24%	40%
見たり聞いたりしたことはない	60%	24%

障害のある方のアート作品などの鑑賞をしたり、参加したことがあるか尋ねたところ、したことがあると回答した人（「見たり聞いたりしたことはない」と回答した人を除く）の割合は76%であり、全国値（前出「文化に関する世論調査」）の40%を大きく上回っており、真庭市民が障害者の文化芸術活動について関心が高いことがわかります。このことは、市が行ってきたSDGs未来都市、共生社会ホストタウンといった取組みの成果とも考えられます。今後より一層、この考えを普及・実践するための取組みや事業が求められます。

ワークショップまとめ

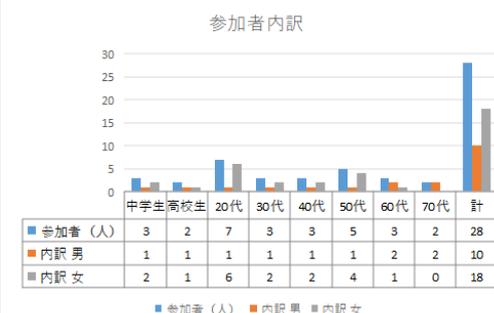


真庭の文化と芸術を考える ワークショップ 結果概要

～みんなで作る、これからの真庭の文化～

2025年
11/7 (金)
18:00～19:30
会場：真庭市役所3階会議室

参加者内訳

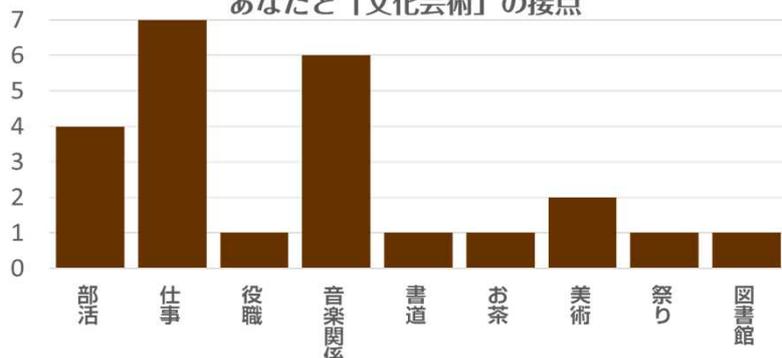


	中学生	高校生	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
参加者 (人)	3	2	7	3	3	5	3	2	28
内訳 男	1	1	1	1	1	1	2	2	10
内訳 女	2	1	6	2	2	4	1	0	18



1

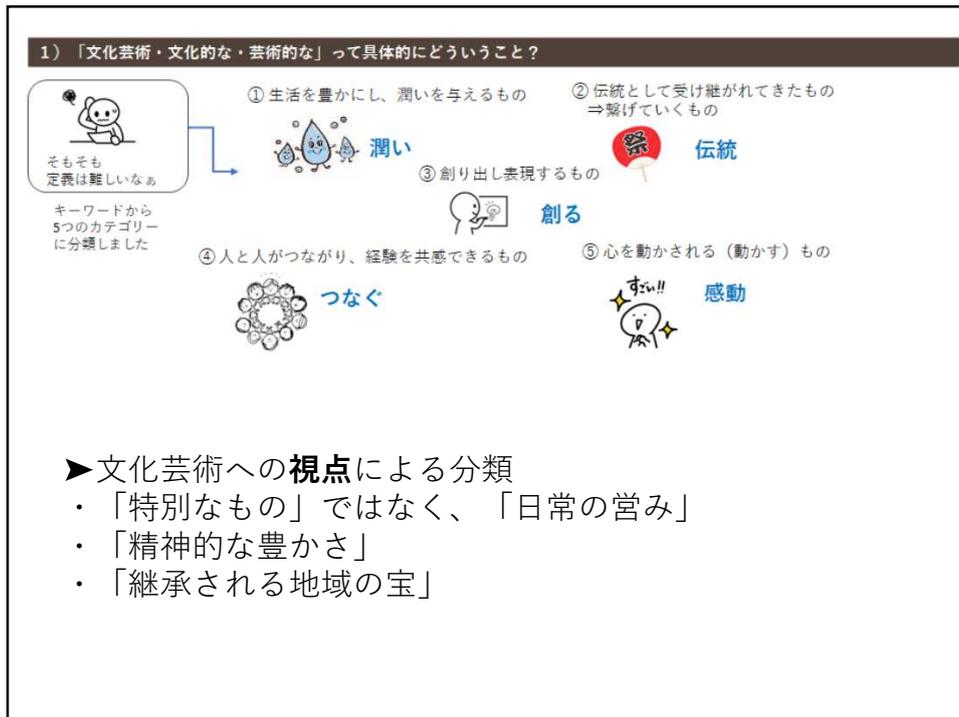
あなたと「文化芸術」の接点



接点	人数
部活	4
仕事	7
役職	1
音楽関係	6
書道	1
お茶	1
美術	2
祭り	1
図書館	1

7名×4班でグループワークショップを行いました。
はじめに、参加者と芸術文化の接点を聞いたところ、仕事や部活など幅広い接点を持った28名が集い話し合いました。

2

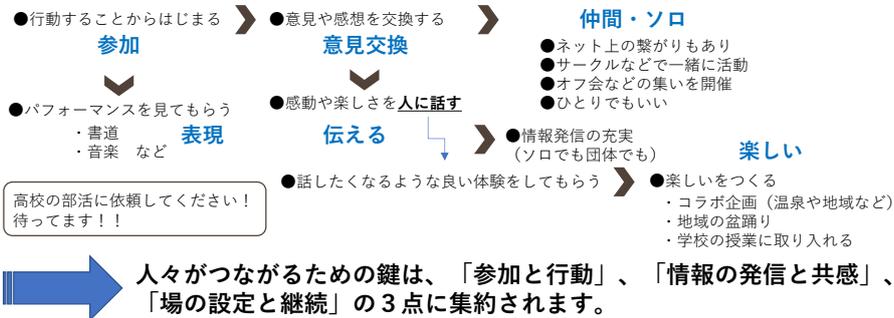


3



4

3) 文化芸術をとおして人々がつながるためにはどうしたらよいか



5

総合的なまとめ

ワークショップ参加者の意見は、文化芸術を「地域を支え、生活を豊かにする土台」と捉え、その実現のために「人」「場」「意識」の3要素を活性化させる必要性を強く示しています。

1. 「文化芸術」の定義の広がりと再認識

文化芸術は、「特別なイベントや施設内の芸術」に限定されず、「日々の暮らしの中の営み」「心と生活を豊かにするツール」「感性の表現と自己実現」として定義されています。同時に、真庭の祭りや伝統工芸、自然、醸造文化といった「地域に継承されてきた宝」も重要な要素と認識されています。

【課題】 計画では、狭義の芸術だけでなく、生活文化や地域固有の文化を広く対象とし、市民一人ひとりの「生きる糧」としての価値を明確に打ち出す必要があります。

2. 「参加と交流」を促す環境の整備

文化芸術を楽しむために必要なのは、「主体性」「好奇心」「心のゆとり」といった個人の意識に加えて、それを支える「環境」です。

▶ソフト面 (人・関係性) : 仲間、褒めあう関係性、否定しない雰囲気、ナビゲーター (案内役)、コーディネーターなど、活動を支え、導き、共感し合える「人」の存在が不可欠。

▶ハード面 (場・機会) : 交流・発表・体験ができる「場」(既存施設の活用、カフェ、多目的室、歴史資料館など)と、「情報発信」、「興味をそそる企画」といった「機会」の創出が求められています。

6

3. 「つながり」を生むための積極的な仕掛け

文化芸術を通じて人々がつながるためには、「待つ」のではなく「仕掛ける」姿勢が必要です。

行動と発信: 市民自らの「参加」「行動」「発信」を促し、感動や楽しさを共有する「仕組み」（オフ会、同好会、オープンチャットなど）の整備。

多様な接点: 学校教育や、普段利用する場所でのイベント、複数分野のコラボレーションなど、「興味のない人」や「若い人」でも気軽に文化に触れ合える「身近な接点」の創出が鍵となります。

市民意見から、
真庭市の文化振興は「一部の愛好家のためのもの」ではなく、「**全市民の心の豊かさと、地域の持続的な営みを支える基盤**」として位置づけられるべきである、
という強いメッセージが読み取れます。

1) 「文化芸術・文化的な・芸術的な」って具体的にどういうこと？

「文化芸術」 違和感	芸術的 他者の評価	ウーン	人が長い間を かけて生みだ したものの	歴史・伝統	文化 長く続いてい る伝統
文化的な 生活の中から	文化芸術 昔の人が分か らなかった 今の人だけが 言えること	心のゆとり うるおい	心を豊かに うごかすこと	人間性の向上	人と人とのつ ながり共感 経験の共有
それがあると 喜びや感動が 生まれる	触れた時や 体験した時に 心地よいと思 うもの	芸術 自分たちで新 たに造り出せ る 創り出せる	生きていく上 で目にする 体験する すべてのこと	新しい発見も うながすこと	

1

2) 真庭市で文化芸術を楽しむためには何が必要？

仲間 (ともに行動 する人・きっ かけになる 人)	主体性	チャレンジ	市民の意識	本人の気持	意欲
好奇心	何かをやりた いという好奇 心	展覧会を開こう	興味をそそら れる企画	余裕	何かに 挑戦できる 心のゆとり
ほめられる	教えることが できる人場所 教えてもらう 時間	箱(場所) と人と 支える スタッフ	施設	活用しきれて いない施設の 利用	森林をつかっ て何か… 彫刻
お金	好奇心				

2

3) 文化芸術をとおして人々がつながるためにはどうしたらよいか？

書道パフォーマンスを見てもらう	高校の部活に依頼してください！ 待っています！	積極的な行事への参加	定期的な企画参加	参加	行動
音楽コンサートを見てもらう。呼びかけることができる手段を見つけて	発信すること共感してくれる人を増やすために体験してもらう	情報発信広める	情報発信	知ること 発信	メディアに広げてもらうために手伝ってもらう
感動や楽しさをまわりに話す	会える場所	意見・感想の交換			

3

1) 「文化芸術・文化的な・芸術的な」って具体的にどういうこと？

感性を形にすること	YOASOBIの群青的な泣ける	昔から続いているもの	思い	美しいものをめぐるということ	古くから受け継がれてきたもの(生活)
日々の暮らしの中にある	生活すること	人それぞれ	楽しむこと	自分の気持ちを表すもの	人の心を動かすこと
表現すること	心揺さぶられること	芸術： 自己表現？ 文化： 人との関わり あいだ創る	心がスッとするもの	感動をもらえるもの	心に栄養を与えるもの いつも必要としています
人が人へ伝えていくこと 伝統、食など 祭り					

4

2) 真庭市で文化芸術を楽しむためには何が必要？

背景がわかること	町の部活動をもっと活発にする	案内してくれる人がいること	体験できること	褒め合う関係性	否定しない気持ち
ホール	個展ができるカフェ	ホール	交流する場	日々の生活の中でちょっと意識してみること	もっと身近に感じてもらえるような工夫
共感できる場(リアルでなくても可)	表現の場があること	同じようなことをしている人との交流	生で触れあえる	ゆっくり語り合える場	楽しむために人と人とのコミュニケーション
市民が文化芸術に興味をもてる機会をつくること	市民自らが様々な企画をされているスゴイな所があったところへ参加してみる	情報提供 真庭市はまにこいんアプリとかMIT、観光局etc みれていいですねいろんな催しがある			

5

3) 文化芸術をとおして人々がつながるためにはどうしたらよいか？

イベント コラボする 複数の分野	バスの音楽・ 声を吹奏楽部 や市内の子に	告知放送の音 楽を吹奏楽部 にしてもらう	こういうの好 き！」と 言える場 つながる場	身近に歴史・ 文化が触れあ える環境に	文化的な事柄 を学校
学校の授業に 取り入れる (真庭の文 化・芸術)	小学校で 地域の 盆踊りを 勉強	つながる場の 創出 (SNS等)	音頭、地域の 歌を 映像をつけて 公開	バスの地名の 時、 歴史的な一言 を伝える	ネット上で こそっとつな がる
興味がない人 でも身近なも のから	伝統を続ける	若い人も気軽 に町のクラブ 活動に参加で きるような雰 囲気をつくる	温泉×アート のように、一 般の方が普段 利用するよう な場でイベン トを開催する	好きなこと、 もの同士が集 まれる場所が あること	奇抜なおもし ろいイベント 開催
多方面に発信 する	自分が好きな ものを発表す る	地域の人から 授業で習って 発表する	文化・芸術の 専門職を増や す(採用枠を 増やす)	そもそもつな がらないとい けないのか	

6

1) 「文化芸術・文化的な・芸術的な」って具体的にどういうこと？

自然文化 温泉文化 醸造文化	伝統工芸 蒜山がま細工 手すき和紙	歴史、文化財 例) 旧せんきょう 小学校 大宮おどり	民俗祭り だんじりけん か、大宮踊り ぶり市	文化とは、そ れを大切に思 い長年人から 人へ継承され てきたもの	地域 人 継承
昔から見たり (自分の人生の 感じたり体験して いるもの (文化的な)	新しく発見 うれしくなる もの (芸術的な)	気がついたら自 分に寄り添って いるもの (文化芸術)	心を豊かにす るツール	音とリズムを 楽しむ 頭の体操	生活を豊かに するもの
人と人とな ぐ事ができる	各地域で育ま れるもの 行事 生き方、感性	好きな事、趣味 の仲間を通して 会話をし楽しい 時を過ごす。 仲間作り	誰かが「作 る」「受け継 ぐ」をしてい きた何かしら 美しいもの		

7

2) 真庭市で文化芸術を楽しむためには何が必要？

文化芸術を楽 しむ時間 (生活が忙し い人が多い)	知ろうとする 気持ち(?)	発表の機会	個人と集団の バランス 思いやり 情熱	つどう場 ネットも	人との つながり
広い板張りの 室がほしい 多目的な利用	多目的に利用で きるスペースの 室が複数ほしい 利用が難しい (確保がしにく い)	真庭の史料館 1.美術館 2.多目的ホール 点在ではなく 久世中心	感想の共有	きっかけや 理由	お金が必要
知る事 みつける事 尋ねてみる事	文化芸術してい る人やイベント の発信	部活動をきっか けに子どもも家 族も楽しめるの で部活動の充実	場が必要	アーカイブ事業 過去へつながら る未来へつなげる	×人口減少
×中高の部活 地域移行					

8

3) 文化芸術をとおして人々がつながるためにはどうしたらよいか？

9

1) 「文化芸術・文化的な・芸術的な」って具体的にどういうこと？

ひとの暮らし の中での個人 の集団の地域 での表現発信 者	守り伝えてい くもの	自分の世界を のびのびと思 うがままに表 すこと	生きる糧とな る行為	個人的（パー ソナル）だけ ど社会的（パ ブリック）	心を豊かにす るもの
ところが気持 ち良くなるそ の地域で共感 されているも の	人々の営みは 結構何でも文 化になる？	引き継がれて いるもの	あらゆる 人の営み	文化（的）は 1人ではでき ない	昔から引き継 がれているも の
文化の中に芸 術は含まれ る？ （文化の一部 が芸術に）	人の行いが昇 華されたもの	自分を 表現する	自分の世界を 好きに描くこ と	芸術（的）は 作品があれば 人数とか関係 ない	アートは芸術 （ファイン アート）でな くてよい？
人を感動させ てくれる作品 （絵とか）	人の特異、普 遍的精神のあ らわれ	時代によって 価値が変わり そう			

10

2) 真庭市で文化芸術を楽しむためには何が必要？

人	ナビゲーター的な人？	芸術について語り合える人	その楽しみや感動を共有できる人	最初は少し強制的でもいい？	楽しむための建物とそれを告知してくれたり支えてくれたりする人
人(プロ)にお金をかけるべき(人を増やす)	若い人が入りたくなる何か	文化芸術は余剰ではない(という意識)	見る・聞く ⇄ やる・つくる	1.参加するひとたち(想像がそのひとの全てが出る) 2.見る側のひとたち(展示場所、展示方法)いろいろなことに関心を持つ	バンドスタジオがあったら嬉しいです
新しいジャンルに飛び込むきっかけを(公民館講座などで入門編を教えてもらいたい)	余裕と表現の場	文化施設(図書館、美術館、博物館 etc)	おだててくれるほめてそやしてくれる人	この場に来ない人のケア	

11

3) 文化芸術をとおして人々がつながるためにはどうしたらよいか？

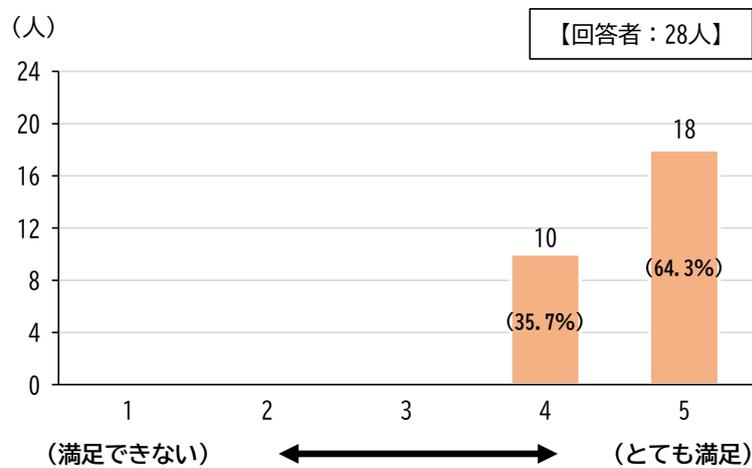
自分の気持ちを発信 ↓ 仲間みつけ	オブチャ	語り合える仲間	真庭の文化芸術を発信(関係人口の増加)	芸術などの情報を教えてくれる人や芸術好きな人と芸術好きな人をくっつけたりあわせてくれる人	なぜデートで映画は定番で美術展ではないのか
集まり散じて最終的にはよくない？	同好会をつくる集まる(集まれる)機会をつくる	オフ会!	語り合える場所、機会	鑑賞≠おしゃべり	ひとのつながり必要リーダーの存在
サークルを超える何か(アンチ八つ墓村)	関係人口?	色々な表現の場の提供			

12

「真庭市の文化と芸術を考えるワークショップ」に関する 参加者アンケート調査結果

- 開催日時：2025年11月7日（金） 18:00～19:30
- 参加人数：28名（4つの班に分け、各班7名）
- 場所： 第1回 真庭市役所本庁舎 3階会議室

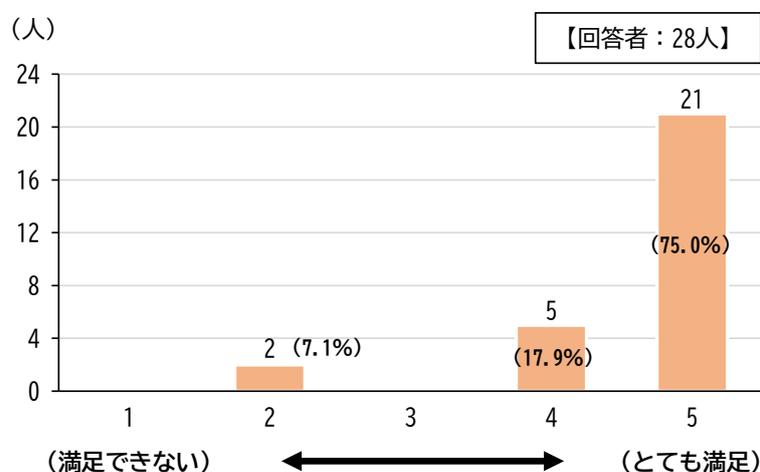
【問2：話し合いの満足度】



回答した理由（意見）	
【満足度：5と回答した方】	
1	人それぞれに共感できる部分がたくさんあり、また様々な考え方があるのがよく分かった。
2	目線が違う普段関わりのない人との会話で、多角的な視点で得られるものが多かったから。
3	自分の意見を発信できて良かったです。他の方の意見や思いが伝わってきて、みんなが文化芸術に触れ合うためにどうするかが話し合えて良かったです。
4	学生の意見を聞くことができて良かったです。自分と似た意見、異なる意見を知ることができました。
5	熱意を持った方々と話すことができて楽しかったから。
6	中学生を含め、初めて出会った方と色々話せて楽しかったです。
7	中学生や若い人、ベテランの人、それぞれの考えや思いを出してもらい、共感できたこと。

	回答した理由（意見）
8	自分の考えていない事が出てきたり、新たな気づきがあったから。
9	温かい雰囲気ですべて話されました。
10	自分の意見にないような話を聞けて、文化芸術について理解を深められた。
11	とても雰囲気良いグループで、話も盛り上がりました。
12	中学生の自分の意見を真剣に聞いてくださったし、皆さんの全然違う観点からの意見がでて面白かった。
13	自分が思っていた文化、芸術とは違う視点観点の意見交換ができて面白かった。
14	色々な年代、立場の意見があって満足できた。
15	みんなが色々な職種で、自分の知らない意見を知れて楽しかった。ディスカッションをもう少ししたかった。
16	色々な話ができ楽しかった。
17	それぞれの人の思い、個性がある意見を聞くことができた。
18	-
【満足度：4と回答した方】	
19	色々な年代の方と話をし、一緒の場で話しをする機会がとても良かったです。
20	色々な世代で協議ができる会だった。
21	色々な考えがあったけど、皆似ているかも。
22	自分の思いを共有できた。
23	普段つながりのない方と、文化事業の意見を聞いた。
24	-
25	進行役等が上手く決められなかったのですが…。でも色々な年代の方と、様々な異なる意見・視点を知れて有意義でした。
26	なんだかんだと話題は出た。
27	自分の好きなことを語れたから。聞いているだけで学びになった。
28	普段関わらない方とお話できて楽しかったです。

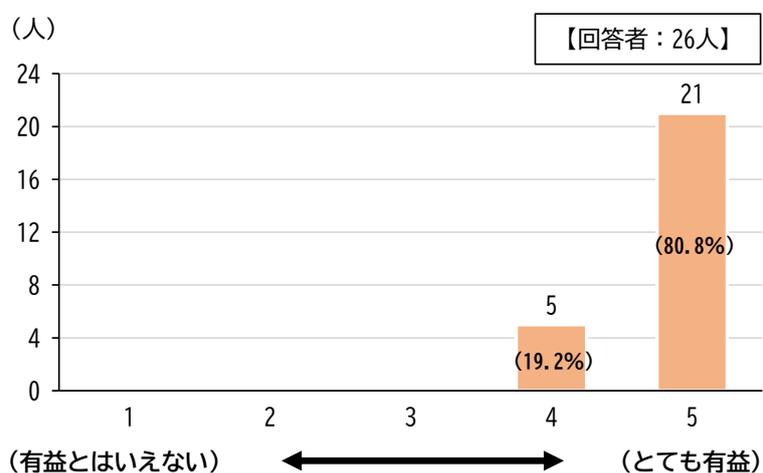
【問3：発表についての満足度】



回答した理由（意見）	
【満足度：5と回答した方】	
1	発表ごとに意見があり、とても興味深かった。高校生の発表がとても頼もしく感じられた。
2	まとめる～流暢に話されていて、言葉がなくなることがないのがすごいと思った。
3	班で出たことを全体で共有でき、可能性が広がったと思ったからです。
4	グループによって特色がでていて面白かったです。
5	グループで出なかった意見も聞いて、深めることができたから。
6	市で大切にしていきたい事を発表できて良かったです。
7	上手にまとめてくださったから。
8	まとめてくださりありがとうございました。
9	全員で出した様々な意見を綺麗にまとめてくださった。
10	各グループ色々な話がされていて、聞いていて楽しかった。
11	発表してくださった方が、皆さんの意見を上手にまとめてくださり、しっかり班としての意見を伝えてくださったから。
12	話をまとめて話してもらえた。グループ別ではあるが、思いは変わらない。
13	時間のなかで、良くできたと思う。
14	-
15	意見をまとめて発表できた。他の班の意見も聞いて、班ごとに違った考えが出ていたことを知ることができた。
16	話を聞いてくれてうまくまとめてもらってよかった。

回答した理由（意見）	
17	三井さんは愉快でよい。
18	中高生の意見が新鮮で面白かったです。もっと聞きたいと思いました。
19	芸術や文化にまとめるなどないと思ったから。
20	-
21	色々な意見が出たことをまとめて話してくださいました。
【満足度：4と回答した方】	
22	高校生の方が頑張ってくれました。
23	班としてまとめきれていない中、頑張って発表してもらった。
24	上手にまとめてもらったから。
25	-
26	-
【満足度：2と回答した方】	
27	まとめるという時間が足りない。
28	うまくまとめられなかった。

【問4：ワークショップの有益さ】



【問 5：自由意見】

	意見内容
1	真庭には本物が少ない、という意見があり、これといったものが浮かばないなと思いました。文化・芸術について、こんなにも考える機会はなかったので楽しかったです。
2	集約は困難と思うが、できるだけ多くの方が共感できるものにして下さい。
3	情報発信がほしいです。
4	企画（楽しめるような）に参加させてくれるような、面白い情報を真庭市のインスタでお願いします！！
5	参加するタイプ、見て楽しむタイプ、スタンスによって考え方が変わってくるが、真庭市で楽しむには、参加の意識がある程度必要。
6	湧き上がってくるものがあればどんどん続けるけど、迷惑なものもあるかも（音量とか）。そもそも文化、特に芸術というものが言葉で言えるものかわからない。醸し出すもの。
7	文化芸術に対するハードルが少しでも下がるように、様々な年代、国籍等が参加できるイベントを企画していければと思います。
8	発表する場や、交流する場がもっとほしい。
9	子ども達の意見を大切をお願いします。
10	もっと身近に、もっと響きあえるような、いろいろな仕掛けができそうに感じました。まずは、やってみること、語ってみること、聴いてみること、が大切だなと思いました。
11	博物館ほしいです！！（真庭市全体の事を学べるような施設）
12	真庭は市民の方が様々な活動をされていて、MIT や SNS でも発信が多く素晴らしいと思う。TV（ニュース）で観て、行ってみたい、となります。普段会わない方々とお話できて良かったです。
13	-
14	「みんなちがって、みんないい」と思いました。色々な年齢で、色々な話が聞けて楽しかった。
15	-
16	伝統のあるものは残していく。大人～小人に、特に盆踊り、祭り、地域にある歴史、共有する場所をつくる。
17	文化という大きなくくりだけでなく、個別のテーマでもするべき。7人中、3人地域クラブに関する不安や意見も出た。内1人保護者、1人は中学1年生でした。関心が大きいテーマだと思う。ぜひ。

	意見内容
18	今あるものを壊さないのも大切だと思うけど、新しいものを取り入れるのも大事。交通機関とかも仕方がないけど、もっと充実していると人が増えるのになあ。車がないと、観光にも来るの難しい。
19	文化をいかに継承するのが大切。そのためのアーカイブ事業が必要。過去とつながる、未来へつなげる。参加した中高生と話しができて良かった。この中高生へ、いかにつなげていくかを考えていく必要あり。
20	今回、真剣に文化芸術の話ができる人がこんなに集まり、熱く語れて希望がもてました。
21	部活動（吹奏楽）について、来年から不安があり、聞いてくれる場がほしかった。今回みんなが共感してもらえてよかった。部活動の実証に当たってから感じることもあるので、ワークショップしてほしい。今回は楽しかったです。
22	現状、蒜山に片寄っているが、都市的な場として必要な文化施設と人はもう少し充実が必要。市の「核」になる所はどこか、何か？
23	-
24	-
25	気持ちだけでない。本気度。
26	もっと触れ合う場所をつくってほしい。
27	-
28	芸術祭などイベントが多いのは嬉しいです！共有できる場（オフ会とかカフェとか）あれば嬉しいです。森芸の時、奈義に森山未来さんがいらしてましたが、ちょっと有名なアーティストの方などゲストのイベントなどテンション上がります！

ヒアリングまとめ

「ヒアリング～聞いてみた！真庭市での文化芸術の楽しみ方、つながり方って？～」

- 実施期間 令和7年12月11日(木)～12月26日(金)
- 対象者 7名(有識者、文化施設職員、観光局、文化芸術イベント関係者)

ヒアリング実施日	対象者	所属	文化芸術との関わり	主要な意見・キーワード	設問①「○○は文化芸術(活動)」という場合の○○とは？(具体的に)			設問②「○○をすることで、文化芸術活動がさらに深まる？」		
					人・コミュニティ	場・機会	意識・環境	その他	人・コミュニティ	場・機会
2025/12/10	柴田 祥子	しましま企画	アートイベント企画、ギャラリカカフェ経営	人をつ育てる・つなげる / 作品を通じて共感 / 対話型鑑賞 / 学びの場 / 五感でとらえる / 創作作業 / 興かれた場	・人をつ育てるものであり、人をつなげるもの ・作品を通じて共感を知る。共感するもの。 ・作品を介してコミュニケーションするもの。	・未知との遭遇をする場 ・学校とは違った角度からの学びの場(自分で発見していく行為、作家の意図を知り共感・共鳴する)。	・理解不能を楽しめること ・直視すると意識が変わるもの ・脳みそではなく五感でとらえるもの ・感性と理性の両方が大切 ・知識だけでなく自分の目で考える(「どうしてこれがあるんだろ?」)。	・お祭一杯になるものではないが、人が生まるより大事なこと。 ・空間についてしゃべり合い、シェアすること。 ・履介する人(評論家・解説者・案内人など)	・物・空間についてしゃべり合い、シェアすること。 ・履介する人(評論家・解説者・案内人など)	・対話型鑑賞 ・体験の場・機会 ・映画館・劇場・ホール・書店・図書館 ・カフェやバーなど
2025/12/14	江南 泰俊	大阪音楽大学特任教授	ミュージックコミュニケーション専攻	芸術は出来事 / 文化は集まり / 共感意識 / 場と機会の創出 / 地域住民の自発性 / よろこびの持続性	・人は文化や芸術を創り出す媒体(メディア)であり、その活動は個人が「生きる手段」を創り出すための現れである。人が集まり集団になると生まれる文化は、時に人々を縛る制約ともなるが、それがこそ文化の宿命である。 ・文化とは、新たな価値を構築すると同時に既存の枠組みを壊していく新陳代謝を内包するものである。集団による文化活動は、その地域やコミュニティに所属しているという「罫り」の枠に拘らなない。	・芸術とは、完成された「作品」そのものを指すのではなく、作品と鑑賞者が出会う「出来事」を指す。この出来事のみで文化は形成する。 ・しかし、現代では芸術が出来事ではなく単なる「サービス」として消費される傾向にある。本来、芸術は美術館のような特定の場に行われるものではなく、人と作品が対話し、出会う場の中に居るもの。 ・したがって、文化芸術を創出するには、作品と鑑賞者の間に双方向のコミュニケーションが生れる場を設けることが不可欠。	・文化芸術とは、その土地の風土や歴史、自然環境、あるいは経済や価値といった社会環境に深く影響され、それらと相互に作用しながら生まれるもの。 ・また、それは固定されたものではなく、時代の変遷とともに形を変え、拡大し続けていくもの。	・スポーツ文化、華文化など、人間の営みの幅はすべて文化と捉えることができる。文化は、地形や気候といった自然環境から影響を受けながら形成されるが、同時に方言や作法のように入人を縛る側面も併せ持つ。 ・「文化芸術」を抽象的な主題として扱うのではなく、「○○」することは芸術活動だ」という具体的な行為として捉え直すことで、より豊潤な対話が可能となる。 ・文化は社会を革新しようが、芸術は文化とリンクしつつも、時には既存の文化と相反し、それを更新する性質を持っている。	・芸術活動は個人の内面からの発露であり、既存の文化を模倣することもあれば、文化が個人を縛る「庄」となった際にそれを破壊し更新する原動力にもなる。文化や社会が、自らの変化や破壊を許容し内包することでこそ、価値を持続的に再生し続けることが可能となる。 ・例えば読書においても、単なる一方的な読書ではなく、若い世代の読書家上の世代が許容する柔軟なメカニズムこそが、文化を未来へ繋ぐ鍵となる。また、こうした文化的な読書や書かき活動は、単なる経済活動ではなく「長寿業」を掲げ、長寿を誓って書かせるようなまちを目指してはどうか。	・地域住民が自発的に場や機会をつくっていくかという点については、行政から与えられてきたりできない。
2025/12/19	三宅幸子 岡村 一郎	公財 真庭工芸(文化振興財団)	公益財団職員	地域文化の継承 / 図書館の居場所づくり / 地域特性を活かす / 口コミ・井戸会議の効果 / SNS活用	・文化は地域や人との関わりの中で生まれ、芸術は地域の人によってつくりあげてきた。 ・住んできたりついでにやって来たもの。生活から生まれてきたもの。 (例えば食文化、お雑煮のちがひなど)	・それぞれの地域の人が高貴しいと褒めて貰ってきたもの。北原は神楽、落合は花火、久世・藤山は祭りの人だんじりなどが例として挙げられる。	・それぞれの地域の人が高貴しいと褒めて貰ってきたもの。北原は神楽、落合は花火、久世・藤山は祭りの人だんじりなどが例として挙げられる。	・ジェンダーの問題はあるが、地域の伝統的な祭りには男らしさ、女らしさを活かしてそれぞれ役割とそれを担うことの意味もあるのではないか。 ・若い人の中には顔を見せない活動、アプリでの活動(例:Vチューバーなど)を好む傾向がみられる。実際に足を運ぶことと対峙しては、会場から離れていても、文化芸術活動は可能になってきている。	・地域なりにその地域に合ったものをしていくべき。重要なのはその骨子や骨髄ではない。内閣が地域にあるかどうかということ。 ・真庭市は広いので、地域毎にそれぞれ文化の特質があり、それを前面に出したら面白いかもしれない。「この地域は●です」といった宣言をするなど)。 ・図書館は居場所づくり、イベントやワークショップを想定した場づくりが重要。街に出ていく(学校等での読み聞かせ等)の存在が活きる。	
2025/12/19 ・12/26	西川 正	真庭市中央図書館	図書館運営、文化イベント	あそび=文化芸術 / ソーシャルキャピタル / コミュニティの重要性 / 一緒にやることでつながる	・あそびは祭り(神あそび)。その中でお互いを知り、人の関係を築く。人、コミュニティにとって必須。言葉が通じなくても、音楽、スポーツでコミュニケーションのツールになる。サッカーもボール一つでコミュニケーションで話せる。世界で通じる言語、ダンスもそう。遊戯も。対話ができる現場を整えれば市民が動き出す。	・Play(あそび)の時間を増やしていくのが文化(芸術)。正解がわからないうから遊びになる。夢中になる時間がすなわちウェルビーイングの状態。	「あそび=文化芸術(活動)」 これには大きく分けて二つの意味がある。 ①ひとつはPlay(音楽・美術・スポーツをプレイする。など)のことと捉える。その例としてサッカー、バレーボール、コミュニケーションで話せる。世界で通じる言語、ダンスもそう。遊戯も。対話ができる現場を整えれば市民が動き出す。 ②もうひとつは車のハンドルのあそびなどという場合の余白のあそび。一見不要不急なものだがそれがないと文化芸術が回っていかない。 個人の生活にとって余白のあそびは重要。	・「真庭らしさ」とは本人によいことをすること。 ・趣味のサークルやボランティア活動は、地域の社会関係資本(ソーシャルキャピタル)として重要な要素。しかし、既存の集団は人間関係の維持を優先するあまり、新規加入者に対しては「仲間入り」を促す。新規加入者にとって「敷居の高さ」を解消するには、入れ掛が人を本気で仲間として迎えようとする姿勢が鍵となる。また、新規加入者が安心して活動できるよう配慮し、集団を管理するコーディネーターの存在が不可欠。 ・活動を牽引する者に熱意があり、それに共感する人が集まることで、持続的に開かれた活動が成立する。		
2025/12/22	藤崎昌彦	真庭市交流体験施設 匠屋(NPO)	文化芸術事業の企画運営	文化は歴史、芸術は制作 / 気軽に触れる機会 / 居場所の重要性 / 多様な年代の交流	・文化として生かすことにあるものを芸術として目録めさせる。気づきをつなげる。 それは人のコミュニケーションの場から生まれる。	・芸術の場は子供時代から触れさせる機会があれば、見る目が育つのは。 何でも深く取り組む文化になり、芸術になるのがマダモド、真直の手形など伝統的なものは文化になるが、それを芸術まで引く振り上げる手助けをするのがむしろお節だと思ってる。	・文化は歴史、芸術は制作(つくる)何でも深く取り組む文化になり、芸術になるのがマダモド、真直の手形など伝統的なものは文化になるが、それを芸術まで引く振り上げる手助けをするのがむしろお節だと思ってる。	・気軽に美術館やコンサートに行く習慣を身につけると、知識が深まる。自分からもっと深く知ろうという気持ちがある。どいうことで育ったのか、ということに興味が出てくる。人生の中で興味の対象が広がる。知らない同士でも共通の興味関心の中でコミュニティが生まれる。		
2025/12/22	興隆幸子	一般社団法人真庭観光局	観光ツアー企画運営	お祭りや人をつなげる / 子ども連れで行きたい場 / デジタル活用(ゲーム・アプリ) / 季節ごとの体験型企画	・お祭りなどのように、人をつなげるもの。	・学校とは違う学びがある場や機会。 ・子ども連れで行きたくなくなる場所。	・一見面白いイメージ、動画が面白いイメージがあるが、実際に行ってみたいと思える場や機会が、行ってみたいと思えないの。	・若い人から文化芸術に触れていけば、自然と受け入れるようになる。 ・もしかしたら従来のやり方とことにつながりかねない。美術館に連れていきたいと思う。 ・コンソーシアムを立ち上げ、バラバラに行っている館を整理して連携会として見せる(藤山クラフト市や藤原らしいのよなイベントをイメージ)。		
2025/12/23	藤崎昌彦	真庭市鶴山郷土博物館	地域文化研究・展示館	表現者と鑑賞者の関係性 / 地域文化の継承 / 地域住民の自発性 / 地域文化の継承 / 地域住民の自発性 / 地域文化の継承	・個人や集団が必要だと思ってきた行為やその産物や関係性を評価されたときに芸術・芸術となる。 ・二人以上の関係。鑑賞者がいることで芸術が生まれる(表現者と鑑賞者の関係)。作者が意図したとおり伝わらないことあり。むしろその方が多い。たまたま鑑賞者が作品を深く知ろうとする事で、作者に共感することができる。また鑑賞者が作品について考えることで、表現者が鍛えられる。 ・文化芸術には絵画のように言葉を書かないもの、詩歌のように言葉を書かないものがある。 ・作家が表現したいという欲が生まれ、作品を第三者と共有したいという欲望が生まれ、芸術になる。	・場所のものや文化芸術ではなく、表現者と鑑賞者の関係性が場や機会を形成したり選んでいく。文化芸術はそれに関与する場や機会を選んでいくことに意味がある。 ・文化芸術の場には様々な種類がある。例えば、専用劇場、広場、公開演、座敷など。 ・その関係性を表現するに最もふさわしい場がある。本来座敷で行われていた神楽を大ホールでやっても面白くない。逆に専用劇場や座敷でやるのはふさわしくない。	・芸術にふさわしい場所はその種類によって違ってくる。 ・文化で生まれた芸術(地域性の強いもの)は地域で鑑賞することが大事。 ・現代美術などは同じ作品でも、東京で見るとも藤山で見るとは違ってくる。 ・劇場として文化活動をする人はいないが、その地域で生まれるものやその土地独自のもの、歴史については興味関心を示す人が少ないのは残念。	・文化とは、人間がより良く生きるための知恵や工夫の積み重ねであり、芸術はその中に内包される一分野。 ・本来は生活道具や祈りのための行為(おどり等)に過ぎなかったものが、時代の変化とともに洗練・昇華され、第三者に芸術的価値を認められることで「芸術」として認識されるようになる。 ・地域の文化芸術を深めるには、外部の表現者に頼るだけでなく、自らや育める人材を地域で育てることが重要である。また、文化芸術は鑑賞者の知的好奇心を刺激し、異世界への興味を促すものでなければならぬ。 ・ただし、提供される作品は玉石混交であるため、両者を繋ぐコーディネーターの役割が鑑賞者を左右する。		

「ヒアリング～聞いてみた！真庭市での文化芸術の楽しみ方、つながり方って？～」

■実施期間 令和
■対象者 7名（注）

ヒアリング実施日	対象者	設問②「OOをすることで、文化芸術活動がさらに深まる？」		設問③「OOによって、人々がよりつながることができる？」			
		意識・環境	その他	人・コミュニティ	場・機会	意識・環境	その他
2025/12/10	柴田 祥子	・自分が断ることでできる、内面への落とし込みができる ・断れやすい、親しみやすいこと ・文化的行為は楽しい、しかし楽しいだけでなくその一歩先を考えていくことが重要。	・文化は感情を人と人へ作り、共有する ・自分が断ること ・同意を作ること ・芸術を断るだけではなく、その先一歩進んで見せ方（魅せ方）を工夫する。 ・誰かがそれに変わるようにする。	・何かを一緒にやるということ。	・開かれた場所であるということ ・図書館・公園など、誰でも気軽に入れる場所 ・来やすい場所 ・駅の場所	・強制・強要しないこと。最初から役割を強制しない。 ・一緒に動いて作った者どうして完成したものを一緒に楽しめ る環境づくりが重要	・場所と機会の創出（例：対話型鑑賞） ・協同作業をすること（アーティストインレジデンスでのワークショップ、持ち寄り鑑賞、など） ・市民協働祭、市民音楽祭
2025/12/14	江南 泰俊	・「楽しむ」がその場で消費されるものもあるのに対し、文化芸術における「楽しむ」は、次なる経済や行動へとつながる持続的なものである。純然たるに鑑賞の益を確認するための消費活動とは異なり、文化芸術は自らの生きる手印を確認しながら向き合ふべき対象。 ・文化芸術の本質は、単に親しみあしむことではなく、作品との対峙を通して自らに「開く」ことにある。鑑賞者も表現者も、社会に対して主体的に働きかける「開く」姿勢を持つことが、真の文化芸術体験において重要。	・文化が個人の自由を縛る「目」となったとき、芸術は既成の枠組みを更新する重要な役割を果たす。本来「文化」と「芸術」は必ずしも連帯するものではなく、時には対立する構図にもなるが、その緊張を認めることが大切である。また、既存の文化を破壊するための芸術という側面も存在する。 ・ウェルビーイングやSDGsといった概念が新たな社会的圧力となる中で、自己否定感や不安などの「イロビーイング（ネガティブな状態）」にある人々を、そのまま受け入れ、許容できるほどの深さを持つことも、まちの重要な文化。	・「人が資源」というのが真庭のコンセプトだと思うので、（文化芸術に関わる）人材がどんどん出て行くこと。	・図書館などの文化施設は、単なる建物ではなく積極的な活動の場として位置づけるべきである。重要なのはプログラムの良い悪いだけでなく、館長や学芸員といった専門家が地域へ外向き、住民に「顔が見える」関係性を築くこと。 ・また、鑑賞りなどの地域文化を可視化し、各地区が競い合うような「踏み合い」の機会を創出することで、地域の機運を高めることが有効。対峙を通して場を育む「まにわBAUM」のような取り組みを継続し、人々が主体的に関われる環境を醸成していく必要がある。	・文化芸術活動を活性化させるためには、誰もが積極的な意見を発信できる開放的な雰囲気づくりが不可欠。外部からの集客を優先するのではなく、まずは地域住民が自ら「集まりたい」と思える場を構築すべきであり、地元の活気こそが結果として外からの人々を惹きつける力となる。 ・また、チンドン屋のような精神で人々を巻き込む「リードやキョウランなど、日常を動かし、住民を巻き込むための戦略的な仕掛けづくりも極めて効果的。	・文化芸術の専門家と地域住民の双方がまちへ降り出し、互いの交流しあえるような社会的な機運をいかに醸成していくかを検討すべきである。
2025/12/19	三宅幸子 岡村 一郎	・文化芸術は100年先をイメージしながら進めていくと最適なものになっていくのでは？ ・時代は進んでいるので、その時代や地域にあったものを発展していくことが大事だと思う。	・真庭市では他にはない文化芸術事業が多い。市民参加の第1回演劇委員会、アウトリーチ、岡フィルとの協定事業など。 ・エス（エス）で毎年行われる第9回委員会いつも真庭いまいまというテレビの放送で楽しんでいたが、今年は会場に足を運ぶという方がおられた。	・ネラシの効果もあるが、ロコで編成に変わってきた。それが田舎と都会の違いかもしれない。 ・井戸会議の効果は大きい。各地域でローカルインフルエンサー（地域のおばちゃんたち）というべき人がおり、その人たちの力は侮れない。	・MTが地域のつながりを深めた。 ・市の広報誌とともにエス（エス）情報誌を全戸配布しているので、それを見て来てくれる方が多い。 ・その他の情報発信媒体も有効に活用している。ホームページを始め、SNS（フェイスブック、インスタグラム、X、ティックトック）等。 ・SNSの情報は世代によって異なり、若い世代になるほど、文字媒体から動画媒体を好む傾向がある。 ・歌謡喫茶や高齢者サロンでは人のつながりが生まれやすい。		
2025/12/19 ・12/26	西川 正	・「だれかと一緒に」があるから、何かが生まれていく。現代人が暮らしの中でデジタル化や合理化が進むと、だれかと一緒にいるという時間が減っていく。だれかと一緒に何かをすることが文化化の力になる。 ・伝統文化については正しさ、こうすべき（住来りや型）があるが、そこにそとはない。伝統とあそびがうまく組み合ったら文化芸術が生き生きと動きます。	・江南泰俊さんが住人となって開演した熊山の鑑賞り（熊山まつり）は、最初、地元の人の理解を得るのに苦労したが、根強く愛護を続け鑑賞りが増えてからは参加者が増え、最初は反対していた地元の方も参加してくれるようになった。	・人々がつながるためには、誰かと共に「食べる、遊ぶ、働く」という行為を積極的に共有することが有効。 ・ただし、集団の中には自由な環境を好む人もいれば、自由すぎると不安を感じる人も。多様な属性に配慮し、参加者が元気づけられるよう調整するコーディネーターの存在が不可欠である。	・文化芸術活動への参加を促すには、入り口を広げ、参加者が自発的に関われる場を設けることが重要。行政主導の講演会のような受動的な形式ではなく、自由に発言できるワークショップなどを通じて、人々が主体的な参加を創出するべき。 ・近年の実験ワークショップは「作ること」から「観ること」との中心が移りつつある。作家がファシリテーターを務める対話型の活動や、地域に滞在して住民と交流するアーティスト・レジデンスのような取り組みは、地域との深い交流を生む有効な手段となる。	・ワークショップ等の活動は参加者が固定化しやすいが、学校など多様な機関と連携し、関心の高い層へも参加の機会を広げることが重要である。 ・活動の軸となるのは「人が本来動く」姿勢である。「熊山のプロジェクト」のように、特定のテーマに限定して議論を促すことが好ましい。 ・「不要不急」だが心豊かな活動に共感する人が増え、まちの空気に定着していくことが、住民のウェルビーイング（幸福）の向上につながるのである。	・伝統文化は固定的なものではなく、長い歴史の中で変化し続けてきたもの。文化芸術において重要なのは、建物の豪華さではなく、そこで行われる活動（ソフト面）と、住民と共に活動する「人」の存在である。「熊山のプロジェクト」のように、特定のテーマに限定して議論を促すことが好ましい。 ・また、地域の子どもたちが将来継承したくなるような土壌を作るには、大人が地域の歴史や文化を知識として教えるだけでなく、自ら本気で楽しみ、自由に自己表現している姿を見ることが重要。大人が「大っぴらに馬鹿ができる」ような開放的な雰囲気こそが、地域の魅力を形作る。
2025/12/22	藤崎昌彦		・文化芸術は、個人の興味や「好き」という感情を介して、見知らぬ同士や異なる世代をつなぐ力を持っている。鑑賞者に感情を揺り起こる場を設けることは、参加者の満足度を高め、次の活動へとつながるリーダーを生む重要な鍵となる。 ・今後の企画においては、単発の開催で終わらせるのではなく、文化芸術とイベントの間で相互に人の流れが生じるような継続的な仕組みづくりが求められる。また、特定の時期に同様のイベントが重なりすぎないよう開催時期を調整し、ジャンルのバランスを考慮することで、地域全体の活動の質を向上させていくべきである。				
2025/12/22	眞梁幸子	・デジタル機器を使うゲーム感覚で文化芸術を学べるツールがあれば子供にもやりやすい。 ・児童に端末が配布されている環境を利用し、真庭のクイズゲームで郷土学習するなどすれば学びが深まる。	・パンフレットでの広報もいいが費用がかかり少し修正するまでデジタル化した方がいいのでは？	・青年観光局として真庭観光のツアーを企画した。その際、アートで人が来るのだということを実践した。	・その場所に行きやすいと思えるようにして、まずは来てもらう。鑑賞りや参加のように、来て体験してほしいという誘因を見つくる。その情報発信も必要。	・学校から家庭への連絡用アプリ（コドモ）に文化芸術情報を入れて情報発信したら効果があるのでは？親が情報を見て出かけようというきっかけになる。 ・親は子供がゲームばかりしているという懸念でつながっていないという思い込みがあるが、適度なゲームもあるため、ゲームによるネットワークが生まれる可能性は今後注目すべき。	
2025/12/23	藤原茂雄	・地域の文化芸術活動を進めるには、市外からの認知など「与えられたもの」を受動的に楽しむ姿勢を脱し、自らの地域の文化を主体的に研究・継承する姿勢が必要である。安寧な外部委託やYouTubeによる紹介は、表面的な活動に留まりかねない。 ・また、活動主体は助成金に依存せず、身元も含めた自立的な活動を通じて、持続可能な独自の活動を確立すべき。 ・鑑賞者は多様な芸術に触れて自身の職業観を磨き、表現者は単に開催することを目指す。内容の向上に向けた自己研鑽に動くことが好ましい。	・地域の中にある文化的資源を発掘してそれを芸術的に昇華させていくことが重要。 ・地域の史や文化芸術をアーカイブしていく作業は重要、予算がないという理由でこれを継続させてしまふ。続けていかなければならぬ。 ・また、活動主体は助成金に依存せず、身元も含めた自立的な活動を通じて、持続可能な独自の活動を確立すべき。 ・鑑賞者は多様な芸術に触れて自身の職業観を磨き、表現者は単に開催することを目指す。内容の向上に向けた自己研鑽に動くことが好ましい。	・単に人が集まるだけでは真のつながりにはならない。重要なのは、芸術や文化の真髄、そしてそこに集まる真の真実について真摯な議論を重ねること。 ・表現者は、自身の世界に閉じこもるのではなく、他者と対話を通じて自己を相対化すべきである。また、活動の受け手側を常に意識して、地域で活動する興味を深く掘り下げ、その経路を自身の表現に取り入れる姿勢が求められる。 ・今後ジャンルの垣根を越え、地域文化と芸術性、芸術性を融合させることで、地域から遊離しない独自の活動を展開していくべき。	・文化祭などは地域の人が多様な成果だけを持ち寄るのではなく、人々がつながるきっかけになるような場や機会を提供するべき。	・地域の文化芸術活動においては、単なる個人の趣味の延長に留まらず、その土地ならではの個性や歴史の深みも再発見し、地域全体で共有することが重要である。真庭のような厚い地域文化や、古くからの地に内在する精神性を掘り起こし、共通言語として活用すべき。 ・人々をつなぐ活動は含みだててはならない。地域の素材を活かそうとする志や風土が、持続的な活動の鍵となる。 ・地域に根差した要素を表現し取り入れ、地域文化と芸術家が互いに話し合う活動こそが、真の文化と芸術を生み出す原動力となる。	

文化芸術施設利用状況（R3年度～R6年度）

■ 舞台芸術・公演（ホール）、学習・活動支援（市民センター・公民館）※一部複合施設

施設名	所在地	建築年	利用者数（人）			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
北房文化センター（北房公民館）	真庭市上水田3131番地	H15	13,496	18,629	19,310	15,536
落合市民センター（落合公民館）	真庭市落合垂水618番地	H27	22,236	30,565	31,434	30,419
久世公民館	真庭市久世2932番地5	S45	19,590	20,581	21,725	18,390
勝山文化センター（勝山公民館）	真庭市勝山319番地	H6	25,835	24,805	32,454	31,850
勝山月田公民館	真庭市月田6838番地1	S63	5,479	6,678	8,498	7,255
勝山富原公民館	真庭市若代343番地8	S59	3,585	3,729	4,809	4,481
美甘市民センター（美甘公民館）	真庭市美甘4134番地	H16	544	523	1,416	3,349
湯原ふれあいセンター（湯原公民館）	真庭市豊栄1515番地	S60	5,721	4,458	5,472	6,994
八束公民館	真庭市蒜山富山根154番地	S52	2,743	3,516	3,800	3,240
久世エスパスセンター （旧遷喬尋常小学校舎除く）	真庭市鍋屋17番地1	H9	26,120	29,634	20,721	37,657
		計	125,349	143,118	149,639	159,171

■ 展示・保存（博物館・ミュージアム等）

施設名	所在地	建築年	利用者数（人）			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
蒜山郷土博物館	真庭市蒜山上長田1694	H4	3,412	4,078	3,204	3,830
真庭市交流体験施設匠蔵	真庭市勝山162番地3	H17	8,956	9,804	9,109	14,887
蒜山ミュージアム	真庭市蒜山上福田1205-220	R3	34,084	18,196	13,050	19,335
		計	46,452	32,078	25,363	38,052

■ 図書館

施設名	所在地	開館年	利用者数（人）			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
真庭市立中央図書館	真庭市勝山53-1	H30	60,262	65,198	71,989	69,864
真庭市立蒜山図書館	真庭市蒜山下福田305番地（蒜山振興局庁舎内）	H31	9,340	8,325	8,727	9,409
真庭市立湯原図書館	真庭市豊栄1515	R2	4,338	5,686	6,223	6,290
真庭市立美甘図書館	真庭市美甘4134（美甘振興局2階）	H16	2,512	2,420	2,916	3,374
真庭市立久世図書館	真庭市鍋屋17-1（久世エスパスセンター2階）	H9	31,784	31,856	25,016	30,523
真庭市立落合図書館	真庭市落合垂水618（落合総合センター2階）	H28	14,227	14,145	13,836	16,216
真庭市立北房図書館	真庭市上水田3131	H15	7,893	7,938	9,795	10,339
		計	130,356	135,568	138,502	146,015

■ 歴史的建造物

施設名	所在地	建築年	利用者数（人）			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
旧遷喬尋常小学校校舎	真庭市鍋屋17番地1	M40	6,940	13,087	16,712	17,111

■ 伝統工芸館

施設名	所在地	建築年	利用者数（人）			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
郷原漆器の館	真庭市蒜山上福田428-3	H7	108	126	110	580

◆用語解説

真庭ライフスタイル（多彩な真庭の豊かな生活） 真庭市が提案する「暮らし方」。すべての「ひと」が、安心して安全に暮らせる「まち」で、自分や家族、そして地域を大切に思い、地域資源の中から真庭市で生きる価値を見つけること。市民一人ひとりが「心の豊かさ」や「自分らしさ」を実感できる持続可能な暮らしのあり方のことです。

文化（Culture） ある集団（地域や社会）が共有する生活様式、価値観、習慣、技術などの総体です。祭り、食習慣、方言、伝統工芸など、歴史の中で世代を超えて受け継がれる「土壌」のようなものを指します。

芸術（Art） 文化の一部でありながら、より個人的・個性的な表現活動を指します。表現者が特定の思想や美意識を視覚・聴覚・身体などで表現し、鑑賞者と共有する創造的な活動や作品のことです。

ウェルビーイング（Well-being） 心身ともに満たされ、社会的にも良好な状態にあることを指します。本計画では、文化芸術を通じて得られる「幸福感」や「生活の質の向上」を指します。

アウトリーチ（芸術アウトリーチ事業） 手を伸ばすことを意味し、文化施設や劇場に来るのを待つのではなく、アーティストが学校や福祉施設などに出向き、演奏やワークショップを行う「出前型」の活動のことです。

メディア芸術 映画、漫画、アニメーションに加え、コンピュータや電子機器などのデジタル技術を利用した芸術表現のことです。

DX（デジタルトランスフォーメーション） デジタル技術とデータを活用して、人々の生活をより良いものへと変革することです。本計画では、情報発信の最適化や文化資源のデジタルアーカイブ化などに関連します。

サードプレイス（居場所） 自宅（第一の場）でも職場・学校（第二の場）でもない、個人がくつろげる居心地の良い「第三の居場所」のことです。既存の文化施設をこのような交流拠点へアップデートすることを目指しています。

コーディネーター（つなぎ手） 表現者（作家）と鑑賞者（市民）の間に入り、作品の理解を助けたり、人と活動をつないで新しいプロジェクトを動かしたりする役割の人材です。

KPI（重要業績評価指標） 目標の達成度合いを測るための定量的な指標です。本計画では、従来の「参加人数」などの数値に加え、今後は「心の豊かさの実感度」といった多角的な指標の導入も検討されています。

PDCA サイクル Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）を繰り返すことで、施策を継続的に改善していく管理手法のことです。

シビックプライド 市民が自分の住むまちに対して抱く「誇り」や「愛着」のことです。地域の文化資源を活かすことで、単なる地元愛や郷土愛に留まらず、「自分ごと」として積極的に関与しようとする意識を啓発し、このシビックプライドの醸成を図ります。

◆真庭市文化芸術推進計画策定の経緯

○第1回真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会

開催日 令和7年10月6日(月)

開催場所 市役所3階会議室(2)

内 容 委嘱状交付、役員選出
真庭市文化芸術推進計画の策定について
現計画の評価とアンケート結果について
基本目標と基本方針案の検討

○ワークショップの開催（真庭の文化と芸術を考えるワークショップ）

開催日 令和7年11月7日(金)

開催場所 市役所3階会議室(1)(2)(3)

参加者 28名（市内中学生・高校生・20代～70代の市民、真庭市に在勤の方、市内文化施設職員等）

内 容 オリエンテーション（ワークショップの進め方等説明）
ワークショップ
発表、意見交換

○第2回真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会

開催日 令和7年11月20日(木)

開催場所 市役所3階会議室(1)

内 容 ワークショップの結果報告
素案の検討

○第3回真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会

開催日 令和7年12月15日(月)

開催場所 市役所3階会議室(2)

内 容 素案の検討

○ヒアリングの実施

実施期間 令和7年12月11日(木)～12月26日(金)

対象者 7名（有識者、文化施設職員、観光局、文化芸術イベント関係者）

○第4回真庭市文化芸術推進計画策定検討委員会

開催日 令和8年1月22日(木)

開催場所 市役所3階会議室(2)

内 容 原案の確認
パブリックコメントについて

○真庭市文化芸術推進計画パブリックコメント

期 間 令和8年2月24日(火)～3月17日(火)

真庭市文化芸術推進計画検討委員会委員一覧

職名	分野	氏名	職業・所属・役職名等
委員長	学識経験者	山下 陽子	一般社団法人人文知応援フォーラムプログラムコーディネーター、真庭市政策アドバイザー
副委員長	文化団体代表	坂根 秀行	真庭市文化連盟会長
委員	社会教育委員	長綱 かほり	就労継続支援 B 型事業所ジーニー
委員	観光局	眞柴 幸子	一般社団法人真庭観光局 事業部統括マネージャー
委員	学識経験者	松村 圭一郎	岡山大学准教授〈文化人類学〉
委員	文化振興施設	三宅 幸子	公益財団法人真庭エスパス文化振興財団 事業推進課課長
委員	学識経験者	山崎 樹一郎	映画監督
委員	障害者支援	松田 圭一	スカイハート灯（障がい者アート）
委員	学識経験者	池田 将	まにわ BAUM、映像クリエイター
委員	学校関係者	山崎 清隆	勝山中学校長、真庭市中学校校長会会長
委員	行政関係者	金谷 健	真庭市生活環境部部長